



みんなの
趣味の園芸

植物園日記

2010年8月～2011年3月

新潟県立植物園

目 次

- 2010/08/19 [がんばれ新潟！（高校野球です）](#)
[サルスベリと一歳性](#)
- 2010/08/21 [ヒスイカズラの果実](#)
- 2010/08/24 [月下美人を昼に咲かせる](#)
- 2010/08/25 [変化朝顔展 29日までです](#)
- 2010/08/29 [発見！ツツジの花芽](#)
- 2010/09/03 [アサザとガガブタ 十二瀬シンポジウム](#)
- 2010/09/05 [夏に咲く！ホツツジ](#)
- 2010/09/07 [インターンシップ お疲れさまでした！](#)
- 2010/09/07 [ビックリ！世界のタネ展 明日からです](#)
- 2010/09/11 [新潟県花いっぱいコンクール](#)
- 2010/09/13 [オオオニバス秘密1 咲く日は？](#)
- 2010/09/18 [植物と食文化講座第2回湯田上温泉
SWEETSプロジェクト](#)
- 2010/09/19 [速報 ヒスイカズラのタネ！](#)
- 2010/09/20 [コブシの花が咲いている！](#)
- 2010/09/21 [秋の植物園まつり！](#)
- 2010/09/22 [ヤブコウジ研究家 門脇さん来園](#)
- 2010/09/25 [オオオニバスの秘密2 葉のつき方](#)
- 2010/09/26 [春一番、にいがた花三昧。のPRIに行く](#)
- 2010/09/28 [ツクバネは子房下位!？](#)

※タイトルに該当ページがリンクされています。

- 2010/10/02 オオオニバスの秘密3 花を割ってみた
- 2010/10/06 本物のフジバカマは？
- 2010/10/09 本物のシュウメイギク
- 2010/10/11 新潟にヒガンバナは少ない？
- 2010/10/17 ヒスイカズラ発芽！
- 2010/10/19 ヒスイカズラ発芽！（承前）
- 2010/10/21 ダイモンジソウのかおり
- 2010/10/23 オオオニバスの秘密4 根
- 2010/10/23 オオオニバスの秘密5 根(承前)
- 2010/10/28 牧野植物園に行ってきました
- 2010/11/04 ツツジのタネと近況報告
- 2010/11/06 紅葉真っ盛り ニシキギとコマユミ
- 2010/11/20 ヒョウタンノキの秘密1 蕾
- 2010/11/22 アオキの秘密
- 2010/11/23 ジョン・レノン「ダブルファンタジー」
プロジェクト
- 2010/12/04 クレマチス・スマラキフォリア開花！
- 2010/12/07 芽が出た！ダブルファンタジープロ
ジェクト
- 2010/12/08 半世紀ぶりに復活！キク秋葉錦
- 2010/12/09 木口さんのクリスマスローズの本
- 2010/12/12 ヒョウタンノキの秘密2 花
- 2011/01/09 あわあわムクロジのタネ

- 2011/01/11 絶滅危惧種 ヤクタネゴヨウ発芽
- 2011/01/13 ヒョウタンノキの秘密3 果実
- 2011/01/18 ホースの中にホース
- 2011/01/24 モンステラの甘い果実
- 2011/01/26 サツキはインド原産？
- 2011/02/01 ツツジとサツキはどう違う？
- 2011/02/03 激レア！冬あじさい
- 2011/02/06 大船植物園
- 2011/02/13 洋ラン展なう
- 2011/02/19 激写！坊主頭がニョキ
- 2011/02/21 昔の園芸カタログが面白い
- 2011/03/01 昔の園芸カタログが面白い2
- 2011/03/11 花のイベント盛りだくさん
- 2011/03/12 イベント中止のお知らせ
- 2011/03/16 花テラスにフリージアを
- 2011/03/26 激ウマ！シャクナゲの蜜
- 2011/03/27 雪の中 高城登山
- 2011/03/31 Goodbye Mr H (Hoosiers)

最後の後から長い一言

8月



「变化朝顔」

2010/08/19

がんばれ新潟！（高校野球です） サルスベリと一歳性

新潟明訓高校が高校野球ベスト8に進出しました。今年も新潟はやります！とは言っても、野球は見たことのない「みんなの園芸日記」担当の倉重です。

今日からスタートする日記では、開花情報やイベント、また普段お伝えできない植物園の活動などについて掲載していく予定です。

なにぶんにもはじめてのブログですので、どんな話題になるか見当が付きませんが、よろしくお付き合いください。

🌱 今日の話 1 サルスベリと一歳性

サルスベリ‘サマー アンド サマー’が満開です。

これは新潟の北越農事株式会社が、一歳性いっさいしょうのサルスベリの中で特に樹高が低い株を選抜したものです。

花色は赤紫ですが、これ以外にも‘ホワイトフェアリー’や‘パープルフラッシュ’等、花色や花形の違う6品種があります。

一歳性のサルスベリは、明確な幹をつくらず、幹枝が叢生そうせいして大きくならないため、グラウンドカバーやツツジなどと同じように道路の植栽帯に使われます。開花期も長いので、長期間楽しめます。

一歳性の植物とは、「園芸用語集」のとおりタネをまいて一年で花が咲く（実がなる）と言う意味ですが、たぶん、もともとは株が「小さくて開花する」ことから、「幼木の形状（一歳）で花が咲く」とイメージされてきた用語ではないかと思っています。本当にタネをまいて一年で花が咲くか試した方はいらっしゃいませんか？

ちなみに、わい性でも、枝の生長自体が遅く、節間がつまったものを「八房^{やつぶさ}」と呼んでいます。

「なぜ開花期がそんなに長いのか?」、「本当は大きくなる?一歳サルスベリ」等、サルスベリ的话题を今後何度か取り上げようと思います。

9月5日まで遊んで学べる「食虫植物展」を開催中です。皆様是非ご来園ください。

後から長い一言

一歳性の「性^{しょう}」は、性質やある特定の性質を持つグループに使います。「この木は性が良い」や「霧島性」(クルマツツジや江戸キリシマのグループ)と言うような使い方をします。

日記の一歳性については、私の見解です。実際、盆栽などには一歳何々と言うのが多くありますので、あながち見当ではないと思いますが、植物によっては、単に普通よりも早く咲くという意味だけなのかもしれません。

一歳性のサルスベリも数年で強い枝が地際から出てきて、放っておくと普通のサルスベリのように大きくなってしまいます。低い樹高を保つには、この枝を元から剪定する必要があります。

最近は多くの品種が栽培されるようになりました。ウドンコ病に強いヤクシマサルスベリの交配種も海外や日本でもつくられています。



サルスベリ ‘サマーアンドサマー’



観賞温室で開催中の食虫植物展
ハエトリグサの中を通ると自動的に閉じる！

2010/08/21

ヒスイカズラの果実

園芸日記担当の倉重です。

今年は当園ではじめてヒスイカズラが結実しました。園芸日記でも hanura さんに取り上げていただきましたので、タイムリーな話題かと思います。とは言っても、自分は全く交配しておりません。熱帯植物ドーム担当のHに聞いた話です。

「今年は何個交配したの」、「300花くらいっす」

「それで2つか」、「途中で落ちちゃうんですよ」

以下面倒なので普通に書きます。

今日の話題2 ヒスイカズラの交配

今年は3月下旬から5月下旬にヒスイカズラが開花しました。翡翠色のフジを大きくしたような花は大変魅力的です。

4月18日から6月8日まで300花以上に交配したところ、2花が結実し、現在長径が17cmにまで育ちました。その他にも十数花が受精したようですが、受粉後2週間で落果してしまいました。

120日で成熟するので、9月下旬にはタネがとれるはずですが、ちょうど触りたいような高さにあるようで、昨日も見えていたらお客様が時計の振り子のようにプーラブラさせていました。落ちないことを祈っています。

ヒスイカズラの柱頭にはドーム状のキャップがあり、そのまま交配しても花粉が発芽しません。このため、指で雌しべの先を軽くこすってキャップを取り除いてから交配します。花粉を運ぶコウモリ

が蜜を吸うと竜骨弁の先から雌しべと雄しべと一緒にニュルッと出るので、この時に自家受粉しないための仕組みだと考えられます。

筑波実験植物園の小西元園長の論文では、1花序（花房）に最大で2果が結実、トータルで結実率は0.95%であったことが報告されています。この低い数値はヒスイカズラが基本的には他家受粉であることを意味しているのではないかと思います。もし、タネができれば新しい形質を持った株が出るかもしれませんし、株間で交配すれば結実率も上がると思います。

ヒスイカズラは全国各地の植物園で栽培されていますが、花を見るとどうもほとんどが一個体から栄養繁殖された株のように思われます。そうだとすれば、植物園間で花粉を交換して交配しても結実は望みません。

文字数超過のため今日はこの辺で。また経過を報告する予定ですので、お楽しみに。



ヒスイカズラの花



受粉2週間後のヒスイカズラの果実
この後落ちてしまった



300花交配して、2果だけ成熟した

2010/08/24

月下美人を昼に咲かせる

お暑うございます。園芸日記担当の倉重です。

今回は月下美人を昼に咲かせる方法を書こうと思っていたのですが、神奈川県フラワーセンター大船植物園に先を越されてしまいました。しかし、日記の原稿を準備してしまったので、もう少し具体的な方法について書くことにしました。

とは言っても、今年の暑さで開花調整中に蕾をダメにしまいましたので、当園では現在昼に花を見ることはできません。次の花が開花した時にお知らせしますので、悪しからずご了承ください。

🌱 今日の話 3 月下美人を昼に咲かせる

サボテンや多肉植物には「何々丸」と言うような勇ましい漢字名がついていますが、月下美人の漢字表記を見るとこれもサボテンの類として認識されているのだなと思いました。

月下美人を昼に咲かせるには、昼夜を逆転させる処理を行いません。

- 1) 開花 10 日前、蕾が長さ 10cm 程度になった頃に昼夜を逆転させる処理を開始します。
- 2) 当園の場合は、19:30 ~ 4:15 に家庭で使う普通の蛍光灯 20 W 2 本で株を電照しています。感光性は高く、この程度の光で十分なようです。
- 3) 4:15 ~ 19:30 までは暗黒下に置きます。

当園では暗室に置き、タイマーで蛍光灯を消していますが、家

庭ではダンボール箱をかぶせて暗くすると良いと思います。密封して蒸れてしまわないように注意が必要です。

- 4) これを開花が見込まれる日まで 10 日間ほど続けると、昼に咲かせることができます。

当園では午前 9 時ごろに開花しますので、処理上の夜がはじまる 4:15 から 5 時間後に開花することになります。昼夜の時間設定を変更すれば、好みの時間に開花させることができます。

是非チャレンジしてみてください。

後から長い一言

どうも月下美人は皆同じ日に咲くようです。以前植物園の友人と話していて、元は同じ個体なんではないかと言う結論に至りました。

当園の近くは、日本最大の花木生産地で、月下美人を専門に生産されている方もいらっしゃいます。ここのお宅でも当園の開花日とほぼ同時期に咲いていました。

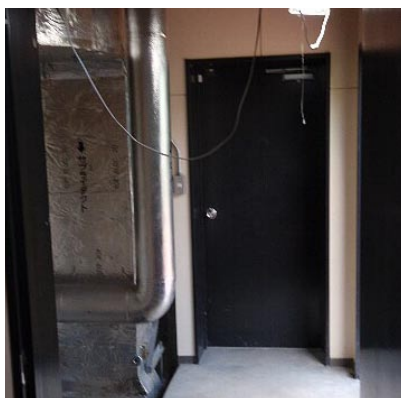
本当に元は 1 個体なのでしょうか？不思議な気がします。どなたかご存知の方がいらっしゃったら、お聞きしたいと思います。



夜に開花する月下美人



日長処理をして昼間に咲かせた



この程度の光でも月下美人にとっては昼

2010/08/25

変化朝顔展 29日までです

広報担当から昨日からはじまった変化朝顔展を取り上げるように言われました。

しかし、今回も筑波実験植物園に先を越されてしまいました。植物園ではどこも同じ時期に同じようなことをやっているのだと妙に納得した次第ですが、重複を気にしていたら書くことがなくなります。このような危機的状況下では他園のことを気にしてられないと決意を新たにしました園芸日記担当の倉重です。

今日の話題 4 新潟の変化朝顔

アサガオは江戸後期の文化年間（1804～1818）に獅子咲きや牡丹咲きなど非常に変わった花や葉をもつ変化朝顔が現れて人気を博し、嘉永年中（1848～1854）に京都、大阪及び江戸で全盛を迎えました。

近代における新潟での変化朝顔の導入と普及は、新潟市の近藤氏の功績によるものです。

氏は明治18年ごろからアサガオに興味を持ち、「都鄙秋興^{とひしゅうこう}」を見て、変化朝顔に非常な興味を持ったそうです。明治23年に大阪の著名な変化朝顔栽培家である秋艸園^{しゅうそうえん}の吉田氏に出会い、変化朝顔の種子と栽培法を授かり、その年から栽培をはじめました。

そして明治25年ごろから新潟で陳列会を催したり、種子を分譲したりした結果、本県を中心に北海道から山口県までの同好の士が集まり、明治30年に新潟朝顔会が組織されました。明治36年から同会によって発刊された「新潟朝顔雑誌」は数多くの作品が色刷

りされている貴重な資料です。

その後は明治末から現れた大輪朝顔に人気に移り、新潟朝顔雑誌も大正9年17号で終刊を迎え、変化朝顔の栽培はほとんど絶えてしまいました。

しかし、平成11年に本県の変化朝顔の伝統を継承するものとして、新潟変化朝顔同好会が発足し、当園で毎年展示会が開催されています。

変化朝顔展 8月24日（火）～8月29日（日）

協力：新潟変化朝顔同好会

約200鉢を展示。江戸時代から続く園芸文化の粋をお楽しみください。

当園で調査を行なっている新潟の園芸文化史調査の成果「にいがた花物語」もご覧下さい。

<http://botanical.greenerly-niigata.or.jp/hanamonogatari/index.html>



江戸時代から続く変化朝顔



変化朝顔展



新潟朝顔雑誌（明治40年）

2010/08/29

発見！ツツジの花芽

こうも暑い日が続くと、どうもだらけてしまいます。

今日話題にするヤマツツジも現在は暑くてお休み中です。とは言っても、見えないところでは変化がおこっています。心身ともにだらけている園芸日記担当倉重とは違う植物の姿をご覧ください。

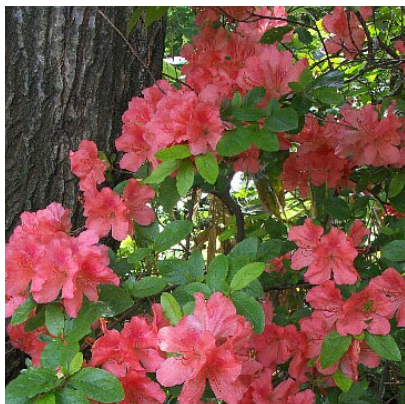
🌱 今日の話 5 ツツジの花芽

春、5月に開花したヤマツツジ。ツツジ園には北海道から九州まで日本各地で採集したタネから育てられた株が植えられていますが、植物園の周辺にもたくさん自生しています。

花が終わる頃になると、ヤマツツジの新芽がぐんぐん伸び出します。芽（枝）は夏、暑くなる7月ごろに生長を止めて、夏の間には花芽をつくります。写真中段の2本の赤茶色の枝が今年伸びた部分です。

その枝の先端についている黄緑色の小さい葉、これは夏葉なつばと呼ばれるもので、枝が生長を止めた夏に蕾を取り囲むように出てきます。枝の途中の葉は冬に落葉しますが、枝先の夏葉は冬でも残って蕾を寒さから守ります。

夏葉を少し取ってみると小さな蕾ができていました。この蕾が冬を越して来年花を咲かせるのです。



植物園の周辺に自生するヤマツツジ

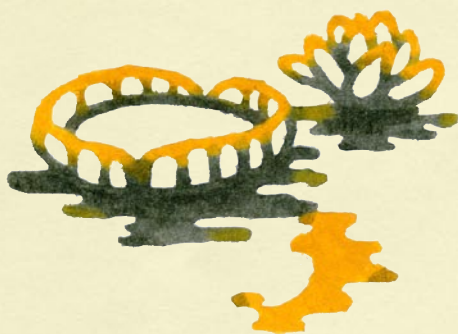


茶色の枝が今年伸びた分



枝先には花芽ができています

9 月



「オオオニバス」

2010/09/03

アサザとガガブタ 十二瀉シンポジウム

暑い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。園芸日記担当の倉重です。

梅雨明けから一ヶ月以上が過ぎましたが、新潟も毎日暑く、またほとんど降雨がないため、園内の植物もだいぶ元気がなくなっています。そんな中でも池に植栽したアサザとガガブタは立派に花を咲かせています。

今日の話 6 「十二瀉 自然環境・川歴史のシンポジウム」

新潟市北区にある十二瀉は、阿賀野川の三日月湖です。元禄の絵図からは、ここが阿賀野川であったことが分かりますが、その後の新発田藩の開削により本流の位置が変わりました。しかし、明治初期までは流路として阿賀野川に通じていました。

この十二瀉の自然環境の保全と河川の歴史を考えるシンポジウムと現地観察会が8月21日に岡方中学校で開催され、私もパネリストとして参加してきました。

瀉の面積は6ha。湖面と周囲の景観はすばらしく、眺めていると心が落ち着きます。

1986年までの調査では、水生植物としてヒメビシ、タヌキモ等11種が確認されていましたが、2008年の調査ではわずか4種アサザ、ガガブタ、ヒシ、ウキクサが確認されただけでした。一見ただけでは分からない環境の悪化が着実に進行しているようです。

このシンポジウムでは新潟市や地域の住民が協力して、十二瀉の歴史を知り、どうやって環境を守っているかを考えるために企画さ

れたもので、河川のや植生調査の専門家、地域と中学校の代表がパネリストとして参加し、それぞれの専門について、また地元と十二瀨のかかわりについて講演されました。私は日本原産植物、特に水生植物の危機的な状況と保全の考え方についてお話ししました。

アサザとガガブタは2007年の環境省のレッドリストの見直しで危急度が下がり、絶滅危惧Ⅱ類から準絶滅危惧にランクダウンしたのですが、これは保全活動の成果が出てきたためです。水草は瀉底に堆積した埋土種子から再生する例があります。十二瀨でも豊かな水生植物が生える環境が再生することを望んでいます。

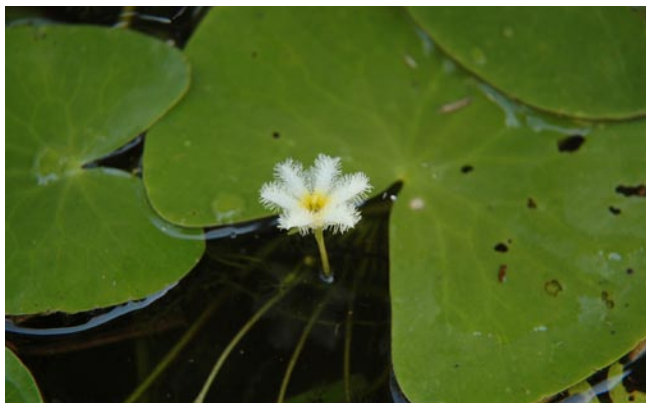
今後も植物園の保全活動についてお知らせしようと思います。

後から長い一言

日本原産の植物約7,000種類のうち1,690種類が絶滅の危機に瀕しています（環境省レッドリスト2007）。現在、生物はかつての千倍の速さで絶滅していると言われますが、その原因のほとんどが人間の活動によるものとされています。

網の目のように入り組んだ生態系の破壊は、いずれ人間の生活にも影響を及ぼすことが懸念されます。

実際の保全活動は地元の理解と連携が最も重要です。どうやって自然を守っていくのかを皆さんが考え、行動することで生物の絶滅を防ぐことができると思います。



ガガブタ（準絶滅危惧）



十二瀨 自然環境・川歴史のシンポジウム



アサザは保全活動によって、現在は準絶滅危惧種となった

2010/09/05

夏に咲く！ホツツジ

連日の暑さで気力が萎えて園芸日記の更新が滞っていました。ここで一気に挽回して、「植物園日記」の6つのサムネイルを全部新潟県立植物園でうめたいと意味のないことを考えている園芸日記担当の倉重です。

さて、関東に長らく住んでいたもので、高い山に生えているとばかり思っていた植物が植物園の周辺にも生えているのを発見して、驚いたことを覚えています。と言うことで、今日は今が花の盛りのツツジ科の灌木、ホツツジを紹介します。

🌿 今日の話 7 夏に咲くツツジ科植物 ホツツジ

ホツツジの特徴は、なんと言っても他のツツジ属には見られない3つに分かれる花卉でしょう（普通は5弁）。白色の花はとても小さくて1cmもありませんが、先がピンクに色づいて可憐ですし、花がたくさんつくので、開花期にはとても目立ちます。植物園の近くの自生地にはレアな真っ白な花もあります。

もう一つ珍しいのは、ホツツジの開花期です。8月下旬から9月上旬に咲くツツジ科の植物は珍しいですね。花の少ない時期には貴重な存在です。

今年出た枝には盛り上がった筋があるので、触ると角ばってるのが分かります。こんな特徴も他にはないのではないかと思います。

関東では標高500m以下ではほとんど見たことがないのですが、新潟には低地の林縁にごく普通に生えています。こんなところに生えているんだったら、暑さには強いんだらうなと思いますが、栽培

もほとんどないようですし、花色選抜等の品種改良もされていません。

誰か園芸化すれば良いのになと思います。

後から長い一言

この時は園芸日記のサムネイルの仕組みを理解しておらず、いくつ書いても同じ植物園の複数のサムネイルが表示されることはないことが分かり、野望も費えました。

さて、ホツツジはツツジ科ですが、ツツジやシャクナゲの仲間（ツツジ属）ではなく、日本と北米に各1種しかないホツツジ属の植物です。和名を漢字で書くと「穂躑躅」で、花がたくさんついて穂の様になると言う意味だと思います。

ホツツジが自生するのは、林の縁の日の当たる、水はけの良い斜面のような場所です。植物園の近くでは、ヤマツツジやユキグニミツバツツジ、ナツハゼなどと一緒に生えています。



ホツツジ



8月下旬から9月に開花する



今年伸びた枝には盛り上がった筋があるのも特徴

2010/09/07

インターンシップ お疲れさまでした！

8月24日から9月2日までの10日間、県内から1名、県外から2名の大学生が当園のインターンシップ実習に参加しました。

県外からの学生は新潟のホテルに宿泊しての参加で、慣れない場所と暑さなどで大変だったのではないかと思います。本当にお疲れさまでした！最終日に宿根草花壇で記念写真を撮りました。

🌱 今日の話題8 インターンシップ実習

当園では教育活動の一環として学生のインターンシップ実習生を受け入れています。

今年のインターンシップの実習は、灌水等の作業やお客様への券売・案内からはじまり、ボランティア対象の園内植物勉強会への参加、バラの園芸教室の補助、当園の「植物園だより」の表紙を飾る富樫信平さんの植物画の整理、変化朝顔の展示撤去等々、実にさまざまなものでした。

最後は、来園時に子供が勉強するための熱帯植物ワークシートをつくってもらいました。食虫植物やオオオニバス、タイワンバナナなど、クイズに答えて、観察して、考えてと言う内容で、子供が喜びそうで面白くてためになるものになりました。今後、実際に来園者が使えるように準備を進めています。

「手際よく責任をもって仕事に取り組んでいました。とても暑かったので外の仕事は少なかったのですが、ワークシートづくりでは、みんなで話し合っていて、良いものができたと思います」とは、教育担当の林の弁。

植物園での実習の経験を通じて、植物によりいっそう興味を持ち、今後の勉強や仕事に生かしていただければと願っています。

今年度は終了しましたが、新潟県立植物園では4月からインターンシップ、博物館実習の募集要項をホームページに掲載しています。

インターンシップ

<http://botanical.greenery-niigata.or.jp/intern/index.html>

博物館実習

<http://botanical.greenery-niigata.or.jp/hakubutsukan/index.html>



インターンシップ最終日に記念撮影



子供向けの熱帯植物ワークシートを作成中

特別独立機関
しゅくまつ
ふくおか
新卒研修チーム1

植物ワークシート
学歴 氏 名 姓

オオオニバス についてしらべよう
はえていくところ(原産地・分布)

クイズ
(自分存心)

- ☆ オオオニバスの葉はヒトが食べることで有名な。(○か×か)
- ☆☆ 東京タワーはオオオニバスの葉のつくりかたをもとにつくられた。(○か×か)
- ☆☆☆ オオオニバスの葉のうららごうがあるのは母国か？

① 他に記された国・地域にみるため ② 変異をたどっていくことや早くくまるとも ③ 葉にたべられやすい理由をたどる


スケッチしてみよう

クイズのこたえ
<おすしよ>

- ☆ ○ 子どもがら食べれます。
- ☆☆ × 最初の大型の温室はオオオニバスの葉のつくりをもとにつくられた。
- ☆☆☆ ③

(世界地図) 分布しているところに○をつけてみよう!





ありがとう

できあがったワークシート

2010/09/07

ビックリ！世界のタネ展 明日からです

こんばんは。園芸日記担当の倉重です。

食虫植物展の次はこれ！明日9月8日から当園初の企画展示「ビックリ！世界のタネ展」がはじまります。

今も準備作業が進行中（だと思います）。写真中段は昼の作業の様子です。

今回は海洋博記念公園管理財団の協力のもと、世界最大のオオミヤシヤ世界一大きな松ぼっくりナガミマツなど、珍しくて面白い形のタネが大集合します。

どうやってタネは散布されるのか？変わった形の秘密は？等々、タネをとおして植物の不思議を探ります。

展示準備に忙しい中、本企画展の担当二人に見所をインタビューしました。

「何が目玉なの？」、「ウンカリナがいいですね」（以上H担当）

「あれね」、「他には？」（以下N担当）

「アルソミトラですね」、「そう」

「でもオオミヤシヤもいいですね」、「そう」

「やっぱりマダガスカルジャスミンも、なんかタネらしい感じでいいですね」、「そう」

「それと…」

ということで、とにかく見所いっぱいの展示になりそうですので、是非ご来園下さい。



世界最大のタネ オオミヤシ



ビックリ!世界のタネ展 準備作業中

新潟県立植物園

新潟 妙高公園

タネも
しなげも
ある種子展

9/8 - 11/14

新潟県立植物園
会館 観音堂 3階 2号(右側)
新潟県立自然博物館 2階 展示室

新潟県立植物園センター

新潟県立植物園
会館 観音堂 3階 2号(右側)
新潟県立自然博物館 2階 展示室

2010/09/11

新潟県花いっぱいコンクール

昨日は「新潟県花いっぱいコンクール」（あしたの新潟県を創る運動協会主催）の審査のために見附市役所に行ってきました。

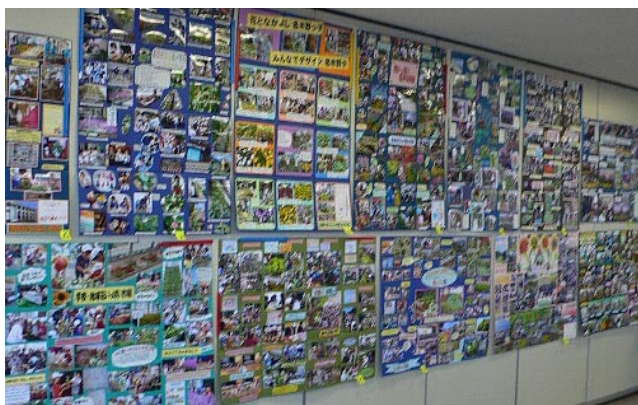
🌱 今日の話 9 第43回新潟県花いっぱいコンクール

43回目を迎える同コンクールは、「花づくりを通して、まちづくり・人づくり」を目標とするもので、今年は県内各地から「保育園・幼稚園」、「小学校」、「中学校」、「地域・職場」の4部門で合計59団体の応募がありました。花いっぱいの花壇やプランター植栽などの力作ぞろいで、審査は3時間にもおよびました。

応募作品を拝見して、花壇やプランターに花を植えるだけではなく、野菜づくりやその材料をつかった調理や作品づくりを楽しんだり、育てた花を地域の方へプレゼントしたりと、観賞する以外の利用にも取り組んでいることが印象的でした。また、花を育てることは、家族や保護者のコミュニケーションを円滑にし、人を思いやる心も育てるのだと、あらためて認識しました。

今年は新潟も雨が降らず、また連日の猛暑で植物を育てるのが大変だったと思います。ご応募された皆さん、本当にありがとうございました！

植物園でも受賞された団体の作品（ポスター）を展示できるように事務局にお願いしています。また、決まりましたらお知らせいたしますので、是非ご覧ください。



新潟県花いっぱいコンクールに集まったポスター



審査中



力作ぞろいで、みなさん工夫されていました

2010/09/13

オオオニバスの秘密1 咲く日は？

新潟はだいぶ涼しくなりました。園芸日記担当の倉重です。

最初に皆様にお詫びして訂正させていただきます。先日温室担当のHから「～っすなんて、言ってないっす。」と故障の申し立てがありました。他の職員にも聞いてみたところ、やはり言っていないとの由。私はそう思って書いていたのですが、完全に私の思い込みだったようです。

🌱 今日の話 10 オオオニバスの秘密1 いつ咲くのか

オオオニバスは「世界一大きな葉」と言われますが、これにはだいぶ条件がつくようです。複葉ですが、長さではヤシの仲間でも20m以上になる種類 (*Raphia regalis*) がありますし、当園のジョウオウヤシもタビビトノキの葉（葉身だけでも）もオオオニバスより大きいでしょう。と言うことで、「オオオニバスは水生植物の中で最大の葉を持つ」くらいが妥当でしょうか。

葉については後日書くことにしまして、本題のオオオニバスの花の咲く日についてです。

当園の温室内の池にはオオオニバスとパラグアイオオオニバスを並べて展示しています。どちらも次々に花が咲いていますが、花の命は短くてと言うように2日間、しかも夜に咲いて咲き終わると水中に没しますので、開館時に花が見られればラッキーです。

さて、お客様にいつ咲くかと聞かれると、なかなか的確にお答えできないのですが、この日に咲くと言うポイントをお知らせしましょう。

オオオニバスの株や葉が大きくなると、水中に大きな蕾が見えてきます。何日かすると蕾は水上に顔を出します。テニスボールくらいの大きさで、先が細くなっていて色といい形といいモモのようです。写真上は開花前日の午後4時45分に撮影したもので、蕾が半分水面から顔を出しています。

写真中段は、翌日の午後5時10分に撮影した同じ蕾です。一日で花茎が20cmくらい伸びて、水上に完全に出了た蕾が割れて白い花がのぞいています。この日は夕方から甘い、熟したメロンの様な香りが温室に漂い、夜に真っ白な花を咲かせます。

開花する日を見分けるポイント、それは蕾が水上に完全に出的る日です！

では、今日はこの辺で。

後から長い一言

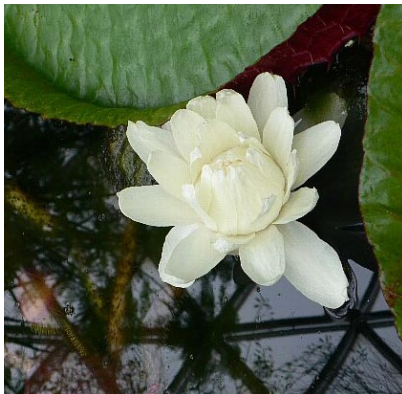
オオオニバスは夜咲いて、翌朝には閉じてしまいます。また夕方（開花初日より早い時間）には開きはじめますが、においもほとんどなくなって、花も赤くなります。



開花前日夕方のオオオニバスの蕾
半分水上に出ている



開花当日の夕方には蕾は完全に水上に出る



夜に開花した

2010/09/18

植物と食文化講座 第2回 湯田上温泉 SWEETS プロジェクト

本で行われた「植物と食文化講座」は晴天に恵まれました。これも私の日頃の行いが良かったのだろうと思っている園芸日記担当の倉重です。

今回の講座は湯田上温泉を会場として、地元の野菜やモモを使った料理を堪能し、その歴史的背景や地域の取り組みを学ぶ内容で75名を超える参加がありました。やっぱり、花より団子です。

今日の話 11 植物と食文化講座 第2回

新潟県には在来の果樹や野菜等が数多く、長い栽培の歴史があります。特にナスのさまざまな品種や黒崎茶豆、明治から栽培される洋ナシ‘ル・レクチェ’、江戸時代から残るナシの古品種‘類産’などは本県を特徴づけるものです。

「植物と食文化講座」は、生きた文化遺産であるこれらの作物とそれに付随する多様な食文化を守り、さらに新しい利用法を探ることで、地域の農業の活性化や食育、新しい産業への貢献を目指しています。

今年度の第1回は7月に開催したクチーナ・デル・オテント (<http://www.cucina-otento.com/index.html>) を会場とした「新潟の野菜とイタリア料理」。江戸時代から続く一六市を見学し、新潟のナスを中心とした話題、料理素材についての説明の後、地元農家の作った野菜を中心としたイタリア料理をいただきました。

今回は、ホテル小柳 (<http://www.oyanagi.co.jp/>) を会場とした「地

元野菜を使ったお食事と湯田上スイーツ」。

最初に私からホテルのある田上町でも生産されているモモの栽培の歴史についてお話ししました。その後、ホテル小柳の野澤専務から、地元生産者と旅館が連携して地元の農作物を提供・利用することにより、地域農業の振興やお客様への地元素材を旬に味わってもらおう試みについてお話がありました。

お食事は田上産の野菜を使った五目おこわや、モモの果汁がたっぷり入ったアイス等の豪華メニュー。皆さん大満足の講座でした。

明日から2日間 9/19・20は秋の植物園まつり

20日（敬老の日）は65歳以上の方は観賞温室入館無料！

後から長い一言

新潟の野菜はおいしいですね。新潟は市場に流通しないで、^{いち}市や行商で売られるものも多くあります。家にも野菜売りのおばあちゃんが来てくれたり、いただいたりして、おいしい野菜を食べています。

枝豆、トウモロコシ、葉ダイコン、アブラナ（折り菜）、カブ、ナス、サトイモ（これはうまい）、レンコン（これもうまい）などなど、本当においしいですね。特にナスは、焼きなす用の大きな焼きなす（品種名です）、漬物用の十全なす、ふかして食べる巾着なす（これもうまい）などがあります。

新潟県の果樹栽培も長い歴史があります。ナシは江戸時代から新潟で栽培が盛んで、天明2年に新潟市（旧白根市）の阿部氏によって梨栽培の秘伝書である「梨栄造育秘鑑」が書かれています（日本農書全集 46 農山漁村文化協会から出版されています）。明治10年代、現在の秋田魁新報（新聞です）に白根地区の果樹生産者が苗木販売の広告を出しているのを見たときには驚きました。近代に入ってもナシ栽培は盛んだったようです。



湯田上温泉で行った植物と食文化講座には75名以上が参加！



講義の後はお食事



地元野菜を使った料理。湯田上スイーツはモモ

2010/09/19

速報 ヒスイカズラのタネ！

臨時ニュースをお知らせいたします。

今日、朝9時頃、新潟県立植物園の通称熱帯ドーム温室内でヒスイカズラの果実が割れてタネがおちているとの通報を受け、職員が駆けつけた模様です。

昨日の夜5時過ぎには異常がなかったとの証言もあることから、その後朝までの間に割れたと思われます。さらに、もう一つの果実も裂け目が入ってタネがのぞいているのが確認された…模様です。

植物園によれば、タネは11個で、紫色、大きいもので長さ6cm、重さ30g、さわるとちょっとネバネバしており、職員が慎重に落ちているタネを回収し、播種の準備をしているとのこと。

ただいま、最新のニュースが入りましたので、お知らせいたします。

裂け目の入ったもう一つの果実は、落ちてタネに傷がつく恐れがあるので、今晚回収するとのこと。

以上、園芸日記担当の倉重がお伝えしました。

後から長い一言

ヒスイカズラは、播種後7～25日で100%発芽するようですが、そのうちの1/3がアルビノだったと報告されています。また、発芽した7月25日から8月1日までの間に最大で2.1m（1日で30cm！）も伸びたそうです。以上は「小西達夫. 1999. 絶滅危惧種ヒスイカズラ (*Strongylodon macrobotrys* A. Gray) の繁殖と保存に関する研究. 筑波実験植物園研究報告 18: 1-51.」を参考にしました。



大きなヒスイカブラのタネ



残りのもひとつの果実も割れてきた



割れ目からタネがのぞいている

2010/09/20

コブシの花が咲いている！

おはようございます。園芸日記担当の倉重です。

秋の植物園まつりも二日目を迎えました。朝は雨だったのですが、これから天気は回復するようです。今日は敬老の日、65歳以上の方は入館料が無料です。

hanuraさんからレポート (http://www.shuminoengei.jp/?m=pc&a=page_mo_diary_detail&target_c_diary_id=10938)があったように、本日もオオオニバスの葉への試乗体験、バックヤードツアー、ミラクルフルーツの試食などを行います。また、園内には体験コーナーや、飲食の販売もあります。是非お出かけください。秋の植物園まつりの様子は後日ご報告します。

今日の話題 12 コブシの狂い咲き

昨日のhanuraさんの園芸日記から、また朝にはボランティアさんからも教えていただいて、駐車場の狂い咲きのマグノリアを見ってきました。昨夜はhanuraさんの日記へのコメントでハクモクレンと書きましたが、確認したところコブシでした。

コブシは通常、春に咲きますが、花芽（蕾）は前年の夏までできています。落葉後に花芽は寒さで休眠し、春の気温の上昇と共に大きくなり、花を咲かせます。

今年は暑さと乾燥で葉がすべて落ちてしまったため、蕾も休眠の準備ができていないうちに咲いてしまったようです。この時期に全部の蕾が咲くことはないと思いますが、花芽は一年に一度しかできませんので、春に咲く数は減ってしまいます。

よく質問がありますが、台風で葉がなくなったサクラが秋に咲くのも同じ現象です。

でもコブシの葉がすべて落ちるとは、今年の夏の暑さと乾燥はすごかったのだと、あらためて感じました。

コブシは開花時に花の下に小さな葉をつけます。これが他のマグノリアとの簡単な見分け方です。「植物図鑑」にコブシを執筆していますので、合わせてご覧ください。

植物図鑑 コブシ

http://www.shuminoengei.jp/?m=pc&a=page_p_detail&target_plant_code=168



9月に植物園の駐車場で咲いたコブシ



花の元には葉も出ている



暑さと乾燥で葉がすべて落ちてしまったのが、狂い咲きの原因

2010/09/21

秋の植物園まつり！

9月19日、20日と秋の植物園まつりが開催されました。

天気予報では両日とも雨だったのですが、なんとかもってくれました。前日から持てる限りの力を使って、晴れないまでも、降らないように祈っていたのですが、効果があったようです。と言うことで、祈禱師に転職しようかとも思っている園芸日記担当の倉重です。

両日ともにたくさんのお客様にご来園いただき、本当に感謝しております。ありがとうございました！

🌱 今日の話 13 秋の植物園まつり オオオニバス試乗会

植物園まつりでは、オオオニバスの葉への試乗体験会、ミラクルフルーツの試食、バックヤードツアーを行いました。21日は敬老の日、65歳以上のお客様は温室の入館料が無料でした。

温室内では先日報告した「ビックリ！世界のタネ展」が開催中で、園内には園芸相談コーナー、友の会の植物販売、アメリカンフラワーや木工細工などの体験教室や飲食の販売の出店がありました。20日には、ちょうど温室内のパラグアイオオオニバスも開花しました。

二日間ともに園長以下職員総出でイベントにあたりましたが、今回園内の池で行なったオオオニバスの試乗会のはじめての試みでしたので、温室担当のHが栽培からお子さんをどう乗せるか等々、職を賭してがんばりました。

春先の話です。

「今年はオオオニバスの葉に子供を乗せるぞ」、「だいじょうぶっ

す」

「富山県中央植物園がやってるから聞いてみな」、「了解っす」
「今年乗せられなかったら、担当を外す!」、「…」(返事なし)

とすることで、返事はなかったものの、富山にリサーチに行って、
外の池に出す時期や施肥管理(毎週1鉢200gの化成肥料!)等しっかり勉強してきたようです。

「今年はテストもかねて秋の植物園まつりに乗せるぞ」、「今年は暑いのでだいじょうぶっす!」とすることで、今回の実施に相成りました。

各日40名以上のお子さんに乗っていただきました。子供も大人も皆さんに喜んでいただけたようです。葉に乗る子供の緊張した顔が印象的でした。

イベント終了後に私も乗りましたが、見事に、沈みました。



池のオオオニバス試乗体験



ミラクルフルーツの試食



友の会の植物販売とバックヤードツアー

2010/09/22

ヤブコウジ研究家 門脇さん来園

ちょっと前の話になりますが、ヤブコウジ（紫金牛）研究家の門脇さんが9月11日に島根県からお嬢様と来園されました。

島根と言えば、「しまね Super 大使」の吉田くん！私は「秘密結社鷹の爪」の大ファンなのですが、残念ながら門脇さんをご存知ありませんでした。

今日の話題 14 新潟のヤブコウジ

斑入りのヤブコウジは、江戸後期から栽培され、主に葉が観賞されます。趣味家や生産者の間では「コウジ」と呼ばれます。

春と秋で葉色が変わる品種や、葉の縁に出る白色のコンペなど、小型ながらも独自の世界を持っています。

新潟県は明治のヤブコウジブームの発祥地で、高価なものは今の価格で2,000万円以上で取引されていました。新潟には資料や珍しい品種も残っているため、門脇さんは遠方にもかかわらず調査にいらっしやいます。

近代におけるヤブコウジの流行については、当園の園芸文化史調査をまとめた「にいがた花物語」のヤブコウジ (<http://botanical.greenery-niigata.or.jp/hanamonogatari/history4.html>) をご覧ください。

門脇さんはヤブコウジを栽培して26年、収集した品種は130以上！間違いなく日本一のコレクターです。また、植物だけではなく、文献や番付表などの資料も収集されていて、その成果を私家版の「やぶこうじ紫金牛写真集」、「平成紫金牛記録」にまとめられています。ヤ

ブコウジ品種の写真とその由来についての非常に重要な資料です。

明治末期には 100 品種以上あったヤブコウジの品種も、新潟では現在 50 品種程度しか残っていません。また、現在ヤブコウジの生産を含む栽培は、新潟と島根くらいしかありませんので、その意味でも門脇さんのコレクションは非常に貴重です。

近い将来、門脇コレクションを一同に集めた展示会を行ないたいと思っています。

斑入りヤブコウジの栽培

斑入りヤブコウジは鉢で観賞しますが、暖地であれば庭植えもできます。日陰で良く育ち、ランナーでふえてグラウンドカバーにもなりますので（品種にもよると思いますが）、皆さん是非育ててみてください。

後から長い一言

寿限無の「やぶらこうじぶらこうじ」が、ヤブコウジカラタチバナなのかについては、寿限無がいつ、どこでできたのかが分からないとはっきりしませんが、江戸も後期以降であれば、「こうじ」と言えば、ヤブコウジなのかなと思います。

草木錦葉集（1829、水野忠暁）には、ヤブコウジは「やぶらこうじ數柑子」、きんぎゆう「きんぎゆう金牛」とあり、カラタチバナは「からたちばな唐立花」、へいちぼく「へいちぼく平地木」、「ひゃくごん百両金」とあり、上方では「きこうじ木柑子」と呼ぶとあります。本草図譜（ー 1828、岩崎灌園）や本草綱目啓蒙（1829、小野蘭山）もちょっと見てみましたが、ヤブコウジは「こうじ」、カラタチバナは「（から）たちばな」と呼ばれたようです。

言葉遊びの様なものなので、はっきりしたことは分かりませんが、ヤブコウジは、江戸や大阪でも当時は豊富に自生していたでしょうし、栽培も簡単だし、広く知られていたのではないかと思います。また、常緑（常葉）で秋冬に赤い実をつけるので、昔から縁起の良い植物とされていましたので、長寿に関する言葉を並べた「やぶらこうじぶら

こうじ」は「ヤブコウジ」の語呂合わせなのかなと思いました。

露地栽培のポイント

露地植える時に、特に白い斑や葉色が薄い品種は、葉焼けにご注意ください（日陰に植える）。毎年、春先の葉の伸び出す前に地際から葉を2、3枚残して刈り込むと、背が高くならず、きれいに仕上がります。切った枝で、さし木ができます。



ヤブコウジ研究家の門脇さんとお嬢さん



葉の斑が美しいヤブコウジ ‘朝日錦’



門脇さんの研究の成果「紫金牛写真集」と「平成紫金牛記録」

2010/09/25

オオオニバスの秘密2 葉のつき方

広報のO担当（本当はもっと偉い）から、

「この園芸日記（9月13日）、ここ違っているんじゃないですか？」、「どこ」、「ここ、故障を申し立てるって、故障したんですか？」、「オレはちょっと故障しているけど、故障は苦情のことで、申し立てるは目上の人に言うことだろ」、「そうですか…」、以下略。

とすることで、若い人には通じないので、これからは使わないようにしようと思った園芸日記担当の倉重です。本当は気が乗らなかったのですが、担当Oがどうしてもこれをネタにしてくれと言うので、仕方なく書きました。

先日はオオオニバスの開花時期の見分け方について書きましたが、今回は葉についてご紹介します。

🌱 今日の話 15 オオオニバスの秘密2 葉のつき方

何年か前の日本植物園協会総会時の研究発表会で、宇治市植物公園からオオオニバスの葉の生育についての発表がありました。この時のオオオニバスが2/5らせん葉序だと言う内容が面白かったので記憶しています。その後、この発表は論文にまとめられています（2008. 河村綾恵ら、*Victoria* Lindl. における葉の成長について、日本植物園協会誌 42：127-29.）。

2/5らせん葉序とは、次の葉が2/5周（144°）ずつずれて出る葉のつき方（葉序）です。分かりにくと思いますが、写真上のようにオオオニバスでは①の葉の前が②、その前が③と、反時計周りに古い葉の間に新しい葉が出てきます。また、新しい葉ほど大きく、

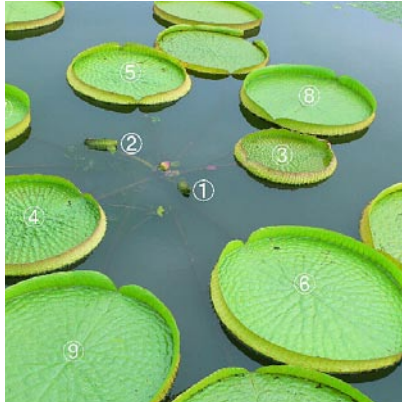
株の中心から離れたところまで伸びます（葉柄が長い）。

これで葉が重なることなく、光を十分に受けることができます。葉は一日に最大で 25cm も大きくなるそうで、直径 2m 以上になります。葉の寿命は約 1 ヶ月です。

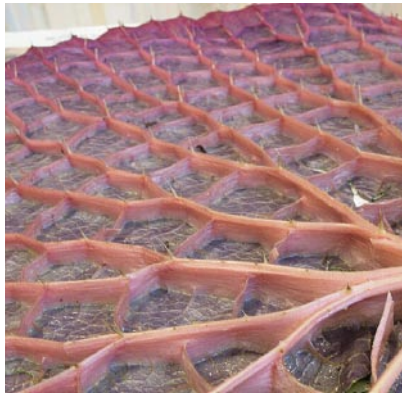
葉の裏は紫色で、浮き出た網目状の葉脈があります。この構造が骨格となって葉を切れにくく、また浮きやすくしています。

葉脈の側面からは空気が出て、網目の中にたまって浮力を増しています。空気は葉から取り込まれ、その一部が葉裏に出て、葉柄の中の穴を通して根に送られます。地中にあるハスの根（レンコン）の穴も、根が窒息しないようにあいています。

今日はこの辺で。近々花についても報告しますので、お楽しみに！



オオオニバスは、2/5らせん葉序



葉の裏は紫色で、網目状の葉脈が浮き出る



葉柄の穴から根に空気が送られる

2010/09/26

春一番、にいがた花三昧。のPRに行く

東京新潟県人会 100 周年を記念して、新潟県人会大交流祭が 9月 25、26 日に新潟市の朱鷺メッセを会場に開催されました。

25 日は、不肖小生が「春一番にいがた花三昧。」の PR をしに行ってきました。

写真中段は記事とは関係ありませんが、見附市観光物産協会のイメージキャラクター「ミッケ」です。

今日の話題 16

日本一の花卉生産地、新潟で行なう「春一番にいがた花三昧。」

新潟県はチューリップ球根の商業生産の発祥の地で切花生産全国一、鉢物花木の生産も日本一で、アザレアやボケ等の生産は全国シェアの 80% 以上を占めます。最近はクリスマスローズやダイヤモンドソウの生産も盛んです。

そこで皆様に新潟の一足早い春を花で楽しんでいただこうと、4 つの花のイベントが協力して、来年 3 月 11 ～ 13 日に「春一番、にいがた花三昧。」を開催することになりました。

◆フラワーウェーブ新潟 2011 (3/11-3/13)

会場 新潟ふるさと村 (新潟市西区)

新潟のチューリップなどを集めた花の祭典

◆第 34 回日本ボケ展 (3/9-3/13)

会場 うららこすど (同秋葉区)

日本最大のボケの展示と即売会。私もはじめて見たときには多様

な美しさに驚きました。

◆花の新品種 in にいがた (3/9-3/13)

会場 新潟県立植物園

育種家や研究者による新品種の展示。

◆チューリップ展 (3/9-4/10)

会場 新潟県立植物園

栽培や品種改良の歴史を紹介。小型の野生種など珍しいチューリップも展示。

各会場でスタンプラリーや花のクイズ、巡回バスの運行等を共同で行なう予定です。

この時期は雪割草の展示会も県内各地で開催されます。皆様、是非新潟へお越しください！（気が早いか）



春一番、にいがた花三昧のPRブース



見附市観光物産協会のイメージキャラクター「ミツケ」



新潟県人会大交流祭

2010/09/28

ツクバネは子房下位！？

こんばんは。園芸日記担当の倉重です。

「今度、ツクバネとツクバネウツギを書こうと思ってるんだけど」、
「そうですか」
「面白いかな?」、「面白い…（ちょっと間が空く）と思いますよ」
「子房の位置がさ」、「そうですね」（忙しくて生返事）

他人が聞けば、まるで私の独り言ですが、こんなことはしょっちゅうです。積極的な賛同は得られなかったものの、さりとて否定もされなかったので、今回はこの話題でいくことにしました。

🌱 今日の話 17 ツクバネとツクバネウツギ

カキを逆さにすると、下から枝（果柄）、へた（^{がく}萼）、果実の順になっています。果実は雌しべの基部の子房がふくらんだもので、萼の上に子房があることが分かります。これを「子房上位」といいます。

一方、リンゴを逆さにすると、枝、果実、萼（小さくて茶色く縮れていることが多い）の順になっています。萼の下に子房がつくので、これを「子房下位」といいます。

羽子突きの羽根に似たタネをもつために、「ツクバネ何々」と名のつけられた植物にツクバネやツクバネウツギがありますが、両種共に子房下位です。

ツクバネは苞（と小さな萼）が、ツクバネウツギは萼が果期まで

残り、その下にふくらんだ果実がつく（子房下位）ので、羽根にそっくりな形になります。

植物園のまわりにビャクダン科のツクバネと、リンネソウ（スイカズラ）科のウゴツクバネウツギと一緒に生えています。半寄生の木本のツクバネはこの周辺に多く自生し、写真の株はコナラに寄生しているようです。

ツクバネウツギの変種であるウゴウツクバネウツギは本州の日本海側に分布します。ツクバネウツギよりも花は大きくて黄色で、とてもきれいです。



ツクバネの果実は羽根にそっくり



ウゴツクバネウツギの果実



ウゴツクバネウツギはアベリアの仲間
黄色い花が美しい (5月撮影)

10 月



「シュウメイギク」

2010/10/02

オオオニバスの秘密3 花を割ってみた

園芸日記担当の倉重です。

どうも噂によると、休みにもかかわらず夜な夜な怪盗担当Hが温室に出没しているようです。先日、夕方に顔を出したので、真相を尋ねました。

「休みなのになんで来てんの」、「それが…」

「夕方になると来るのも怪しいよね」、「それは…」

「白状しろ（とは言いませんでしたが）」、「休みの日にばっかりオオオニバスの花が咲くんすよね」

「日頃の行いだな」、「そっすかね」

と言うことで、開花したオオオニバスの交配に来ていたようです。

今日の話題 18 オオオニバスの秘密3 花の構造

オオオニバスの花の命は2日間（9月13日の園芸日記参照）。

開花初日は真っ白で、熟れたメロンのような甘い香りのする花を夕方から開きはじめます。花の内部の温度は、室温 19℃に対して 28℃もあります（2007年1月29日測定値）。高い温度によって香りを遠くまで漂わせ、コガネムシの仲間を誘います。花の中は暖かいため、コガネムシは開いた狭い穴をとおてもぐりこみます（写真上）。

この時、雌しべに花粉がつけばタネができますが、花の中の雄しべからは花粉が出ていません（一日目の花は機能的に雌）。したがっ

て、雌しべにつけられる花粉は、コガネムシが他の花でつけた花粉です。

翌朝、花はつぼみ、穴は閉じてコガネムシは出られなくなります。花の中では今度は雄しべの先（葯）から黄色い花粉が出て、コガネムシは花粉まみれになります。この日は雌しべには花粉がついてもタネができにくくなっています（二日目の花は機能的に雄）。

そして、夕方から再び花は開きはじめますが、花は赤色に変化し、また香りもほとんどなくなるので、コガネムシは花から出て、他の白い花を目指して飛び去ります。

こうして自生地ではコガネムシによって、他家受粉が行われています。

当園では二日目の赤い花から花粉を取って保存し、他の株の花が咲いた日に交配してタネをとっています。オオオニバスは花を咲かせ終わると枯れますので、毎年タネをとって苗を育てなければなりません。結構手のかかる植物なんです！

後から長い一言

オオオニバスは他家受粉によって、近交弱勢を防いでいるのだと思います。スイレンも咲いているのは二日より長いのですが、同じ受粉様式の様です。

スイレン科でも、オニバスは普通の花（開放花）はほとんど結実せず、開花期の終わりごろの閉鎖花（咲かずに直接結実する花、スミレの仲間にも見られます）が結実するので、基本的に自家受粉のようです。いろいろあるんですね。

9月25日のコメントにも書きましたが、日本のような温帯であればオオオニバスは寒さで枯れますが（一年草）、温室で育てれば一年以上生育します（二年草）。しかし、花を咲かせられる大きさの株になるまでは育ち、開花後には温度に関わらず枯れるので、一捻草（一回結実性多年草：開花結実が一回だけで、その後枯れる）と言うの

が正確なのかもしれません。



開花一日目のオオオニバスの花
甘い香りでコガネムシを誘う



花の構造



開花二日目の花

香りはなくなり、花粉をつけたコガネムシは開花一日目の他の花へ

2010/10/06

本物のフジバカマは？

何年か前に友人が新潟に来たときの話です（前者が私）。

「これフジバカマじゃないよね」、「違うね」

「なんなの？」、「さあ？園芸品種かどこかから輸入してフジバカマの名前で売っているんじゃないの」

もう記憶も定かではないのですが、温室に展示していたそのフジバカマは白い花を咲かせていましたが、葉形が私のイメージとは違っていました。友人も違うと思ったようですが、その時は調べずじまいでした。

なお、今回の話は落ちがないので、そのつもりでお読みください。

今日の話 19 秋の七草 本物のフジバカマは？

そもそも自生のフジバカマを知らないのですが、話にもならないのですが、これはフジバカマの自生は日本にはなく中国から渡来したものが野生化したとずっと思っていたからです。

日本の野生植物（平凡社）にも日本には奈良時代に時代に渡来し、野生化したとあるように、植物をやっている人は野生のフジバカマは日本にはないと端から思い、自生している様でも目に入らなかっただろうと思います（私だけかもしれませんが…）。昔フジバカマらしきものを川沿いで見たのですが、この時も帰化だからと思って観察しませんでした。

「保全生態学入門」(鷲谷いずみ・矢原徹一、1996、文一統合出版)

だったと思いますが、昔読んでいたら、最近の研究によってフジバカマは日本にも自生するとありましたので、遅ればせながらそうなのかと気づきました。

先日、気になって圃場で栽培しているフジバカマを見てみました。一つは花が紅がかり、小葉が細長く、鋸歯が細かく尖っている株（写真上の右側と写真下）、もう一つは花が白色で香り高く、小葉が大きく、草丈も2mを越えて育っている（写真上の左側と写真中段）がありました。両方ともフジバカマではないような気がするのですが、結局良く分かりません。

ネットで調べてみると、紅色の花のフジバカマは、フジバカマとサワヒヨドリの雑種サワフジバカマであると言う記述があるのを見つけました。怪しいと思っていた人も多いのでしょうね。

知らないものを、本物だ、雑種だと議論してもはじまりません。植物園では由来の明らかなきちんとした個体を持っていないといけないなど痛感した次第です。

本物の秋の七草のフジバカマは流通しているのでしょうか？



フジバカマとして流通する2種類
どちらもフジバカマではないと思う



花が白色の株は2m以上に育っているが、正体は不明



これはサワフジバカマだろう

2010/10/09

本物のシュウメイギク

園芸日記担当の倉重です。思いつきで今回も本物シリーズにしました。とは言っても、他のネタは思いつきませんので今回で終わる予感が濃厚です。

皆様には釈迦に説法で恐縮ですが、今回取り上げるシュウメイギクはキクの花に似て、和名にもキクとつきますが、キンポウゲ科イチリンソウ（アネモネ）属の多年草^{がく}です。クリスマスローズと同じく、花に見える部分は花弁化した萼です。

前置きはこのくらいにして。

🌱 今日の話 20 本物のシュウメイギク

シュウメイギクは八重で普通結実しないことから、近縁で一重で結実する中国の野生種（*Anemone hupehensis* アネモネ・フペヘンシス）の変種（var. *japonica*）であり、古い時代に中国から渡来したといわれます。

「花壇地錦抄」（1695）には、「しうめい菊 花紫 八重 きくのことく」とあります。「本草図譜」（1828 完成）にも彩色図がありますが、何と言っても有名なのはシーボルトの「日本植物誌」の植物画でしょう（色は紅色で実物とは違いますが）。京都大学電子図書館内に掲載されていますのでご覧ください（<http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/b01/image/01/b01s0201.html>）。

お気づきだと思いますが、現在シュウメイギクとして販売されているものは、かつてのシュウメイギクではありません。いつの間にか、違う種類がシュウメイギクになりかわってしまったのです。写

真上が本物（個人宅の栽培品）。

現在シュウメイギクとして栽培される系統は、シュウメイギクと台湾シュウメイギク (*A. vitifolia*) の交配種 (*A. x hybrida*)、またはシュウメイギクの母種フペヘンシスの園芸品種で、ほとんどが海外で改良されたものです。

シュウメイギクにくらべ、草丈が1～1.5 mと高くなり、花も大きくなっています。海外ではジャポニカ・ハイブリッドと呼ばれますが、日本には特別な名称はないので、まあシュウメイギクでも良いとは思いますが、長い栽培の歴史のある本家本元が忘れられてしまうのは残念なことです。

写真下はサービスで載せた新潟のモリアオガエル。斑紋のないタイプです。

後から長い一言

野生化したシュウメイギクは少なくなっていると思いますが、今でも多少栽培されています。タネはできませんが、環境が良ければランナー（走出枝：地面の浅いと頃に伸びる枝）でどんどんふえます。石垣の上など排水の良い、半日陰のような場所では絶えずに長期間育っています。

良く植えられている白一重で1mを超える草丈のシュウメイギクは、品種名が明記されずに販売されていますが、‘Honorine Jobert’（オノリーヌ・ジョベールと読むのだと思いますが…良く分かりません）ではないかと思います。1858年にできた古い品種です。



これが江戸時代から栽培される本物のシュウメイギク



シュウメイギクの交配種 ‘ハドスベン・アバンドانس’



おまけの新潟のモリアオガエル

2010/10/11

新潟にヒガンバナは少ない？

こんばんは。園芸日記担当の倉重です。

豊栄中高齢教養大学（新潟市北区）の園芸教室に毎月出向いています。行きはじめてもう2年半にもなるので、毎回同じようなことを話していますが、生徒の皆さんは「何度でも大丈夫ですよ」とおっしゃってくれます。確かに、先月の教室の内容を質問すると「さあ」と言うような返事が多いのも事実ですが、自分の教え方が悪いとは思わず、そこはポジティブシンキングで、生徒さんが忘れるから何回も説明しているんだと自分で納得しています。

今日はその生徒さんから昨年寄せられた質問についてです。なお、今回も落ちはありませんので、あらかじめお断りしておきます。

🌱 今日の話題 21 新潟にヒガンバナは少ない？

「新潟にはなんでヒガンバナが少ないんですか」と言うのが、その質問でした。旅行をされた時に他の地域で群生する花をご覧になっての疑問だったようです。

なるほど、そう言われれば群馬にいた時には、田んぼや畑、山すそなど、いたるところに生えていました。

考えてみると、ヒガンバナは花の終わる頃に葉を出して、春には枯れます。新潟では葉の茂っている11月から天気が悪く、雨の日が多くなります。12月のクリスマスごろには雪が降りはじめ、その後根雪となり、3月まで雪か雲りの日が続きます。

ちょうどヒガンバナが葉をつけて球根（鱗茎）に養分を蓄える時期に新潟では天気が悪いんですね。それで球根の太りが悪く、分球

もしにくいので、新潟にはヒガンバナが少ないのだろうと答えした次第です。

お後がよろしいようですので、今日はこの辺で。

後から長い一言

ヒガンバナは古い時代に中国から渡来したと言われますが、日本のものはタネができない（3倍体）ので、人が植えて、分球してふえたものです。強いんですね。

写真下のリコリス（ヒガンバナの仲間の学名）も掘り上げなくても、毎年良く咲きます。ダイヤモンドリリーの名前で切花として出荷されていますが、すごくきれいです。



新潟にヒガンバナは少ない？



ヒガンバナの白花品種シロバナマンジュシャゲ



横山園芸さんからいただいたリコリスの園芸品種

2010/10/17

ヒスイカズラ発芽！

空気で、こんばんは！園芸日記担当の倉重です。今回は都合により本題の方が短くなりました。

先週は能登に行っていました。予定もつまっていましたし、ネットがつながらない環境だったので、園芸日記も更新できなかったのですが、なければないで良いなど実感しました。

遊びに行ったわけではないのですが、奥能登は海あり、山ありで、すばらしいところです。奥能登（能登町、珠洲市、志賀町等）の民家には‘本霧島’を中心とする江戸キリシマ系ツツジの古木が300株以上残っています。地元では「のとキリシマツツジ」と呼ばれ、花の時期には一般に開放する庭園もあります。とにかく大きくて、満開時の深紅の花はなんともすばらしい！今年春のオープンガーデンの詳細はここからご覧ください（<http://www.okunoto-ishikawa.net/modules/opengarden2010/index.php?page=result&c501=1>）。


写真は、石川県の天然記念物「大谷ののとキリシマツツジ」（珠洲市）の今春の開花の様子です。

当園では全国各地の江戸キリシマ系ツツジの情報も収集していますので、開花前に皆様へ情報提供のお願いをしようと考えています。

さて、前置きが長くなりすぎましたが、今回の話題は9月19日の園芸日記でご報告したヒスイカズラの種子についてです。

🌱 今日の話 22 ヒスイカズラ発芽！ その1

9月19日と翌日にヒスイカズラの果実が割れ、合計11粒の種子を収穫しました。写真中段は9月20日に割れたヒスイカズラの




果実と種子です。

9月20日には、昼休みを返上して温室担当Hと各粒の重さを測り、午後に播種しました。19日の種子は下に落ちて傷がついていたものもあったので、ベンレートで殺菌後、1粒ずつ5号の化粧鉢に播きました。十分に灌水して、熱帯植物を管理している栽培温室に置きました。その時期はもちろん無加温です。

最初に発芽を確認したのは、10月2日です。よく見ないと分かりませんが、1鉢だけ長さ5cmほどの細い芽が出ていました。

この話次回に続く。





能登地域に残るツツジ ‘本霧島’ の古木



ヒスイカズラの果実と種子



こうやって鉢に播きました

2010/10/19

ヒスイカズラ発芽！（承前）

昨日の続きです。今回はいきなり本題で、しかもまじめな話だけです。

🌱 今日の話題 23 ヒスイカズラ発芽！ その2

9月20日に播種したタネが10月2日に発芽した状態が上の写真です。芽の長さは約3cmでした。他のタネをまいた鉢もほじくり返してみたところ、タネの中心がぱっくり割れてそこから根が出ていました。その後、すべての鉢で発芽を確認しました。

芽が盛んに伸びたため10月9日と10日に植え替えをして、朝顔用の支柱を立てました。10月11日に計ったところ、長いものでつるは45cmになっていました。その後生長がよいものはさらに鉢を大きくして、10月15日にはつるは1m以上まで伸びていました。つるの節には、ごく小さな葉があるのですが、まだ展開していません。

今回の観察を通じて、フィリピンに自生するヒスイカズラは、熱帯雨林での他の植物との光競争において生き残るために、まずタネの栄養を使ってつるを短期間に長く伸ばし、その後日の当たる高さまで伸びた頃に葉を展開して光合成をはじめのではないかと思います。そのために胚乳（芽や根を生長させるための栄養を含むタネの部位）が大きく、タネも必然的に大きくなったのではないのでしょうか。

後から長い一言

今回観察して、なんでこんなにタネが大きいのが得心しました。他のマメ科の実生も同じような生育をするのかよく分かりませんが、ジャングルでの過酷な競争下では、大きく育て日に当たらないと生き残れないのかもしれないですね。



9月20日に播いたタネが10月2日に発芽



発芽していないタネも根が出ている



葉が出ないうちに、つるがどんどん伸びる

2010/10/21

ダイヤモンドソウのかおり

最初に宣伝です。

五泉市緑を育てる会の市民緑化教室で「新潟花の園芸史」の演題で不肖倉重が講演を行ないます。当園で調査を進めている江戸時代から現在までの新潟の花弁園芸の歴史をヤブコウジ、ボタン、チューリップを中心にお話します。どなたでも自由に参加できますので、皆様是非お運びください。

日時 11月3日 午後1時半からおおむね1時間

場所 五泉市総合会館（五泉市旭町7-11）第1会議室

今日の話題 24 ダイヤモンドソウのかおり

10月5日から展示をはじめた約30品種のダイヤモンドソウの花が満開を迎えています。今年の夏の暑さで開花も少々遅れ気味でしたが、10月31日（日）まで大文字草展を開催しています。

ダイヤモンドソウは、自然下でも葉や花の形に変異があり、20数年前の「ガーデンライフ」には、赤や緑花、斑入り葉の珍品が掲載されています。当時は株分けでふやされていたため、これらのダイヤモンドソウが栽培されることは少なかったと思います。

最近、種苗店や量販店でダイヤモンドソウが売られるようになったのは、組織培養で大量に増殖できるようになったためです。新潟はダイヤモンドソウの日本有数の産地ですが、皆さん国内外の会社に増殖を委託しています。これにともなって、数多くの園芸品種が生まれ、大量に流通するようになりました。花の少ない秋に咲くかわ

いらしい花や、野趣に富んだ姿が人気の秋咲き山野草のニューフェイスですね。

花色は白色をはじめ赤、桃等と多彩で、花形もナデシコのような八重咲きなど変化に富んでいます。当園でも 100 品種以上を保有していますが、実際はもっとあるのだと思います。

タイトルの「におい」ですが、花色や花形に関係なく、甘いににおがする品種があります。写真中段の‘紅鶴’はよく香ります。下の‘白王獅子’は忘れました。においのしないものや変なにおいのものもあります。

お持ちの方は是非かいてみてください。花屋でかぎまわっていると怪しい人と思われまますのでご注意ください！

後から長い一言

ダイモンジソウの自生地は、水のしたたるような斜面や岩場です。

生産現場では、温室に地下水を引いて、地面を湿地ようにして栽培しています。水切れや低湿度は枯死の原因になりますので、植え穴を開けた火山岩のような石に植えつけて、石を水に浸して、水切れしないようにすると良いかもしれません。夏の暑い時には風通しを良くするのも効果的です。太平洋側では冬場の乾燥にも注意が必要です。



大文字草展



ダイヤモンドジソウ '紅鶴' の花は甘く香る



'白王獅子'

2010/10/23

オオオニバスの秘密4 根

今日、温室担当 H から注意を受けた園芸日記担当の倉重です。

「4回くらい書いているんで、いい加減にオオオニバスのネタも終わりにしたいな」、「ダメっすよ」

「のんりこさんから、根を見せてくれと言われたから、これでフィニッシュだろ」、「まだタネを書いてないっす！」

「じゃオレのかわりに書いてくれ」、「じゃあ温室担当になってください！」

沈黙…

と言うことで、この話題、まだ続くかもしれません。

今日の話題 25 オオオニバスの秘密4 根っこを見てみた

これまで、オオオニバスの根についての記録はあまりないと思いますので、観察してみました。

園内の池で栽培していた1鉢を陸地近くまで運び、花や葉を切り、鉢から抜いて、池の水で土をおとしました。根はハス（レンコン）のように肥大せず、直径1cmと細く、鉢いっぱいに密生していました。外側の新しい根は白く、中心部の古い根は茶色になっています。根からは細根が出ています。

ここで温室担当 H が発見！

写真中段に見えるように、ミミズのような短い赤い根が出ています。葉が出る時に、このような新しい根も葉柄の基部付近から出て、白い太く長い根になるようです。そのため葉数がふえる時に、根も

同時にどっとふえると思われます。拡大したものが、写真下です。葉柄の基部と根の間が茎です（多分）。ちなみに蕾のついている花柄には、根は出ていませんでした。

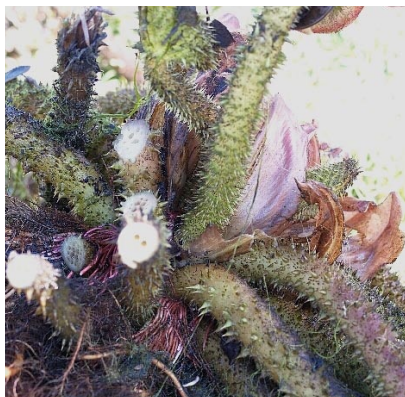
写真がまだあるので、次の園芸日記に続く。

後から長い一言

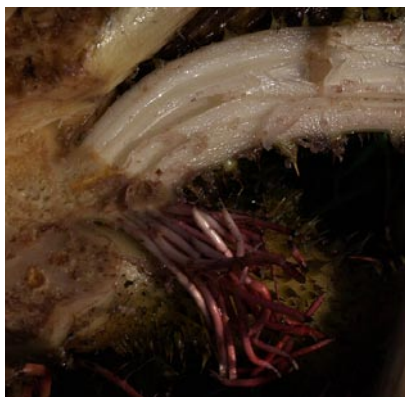
葉柄も含めてオオオニバスのとげは全部鋭くて、刺さるとすごく痛いようです（私はあまり触らない）。今回も鉢の移動や葉を切るときに皆「いたっ！」と言っていました。



オオオニバスの根



葉柄の基部から赤い新しい根が伸びるのを発見



葉が出ると、新しい根が伸びる

2010/10/23

オオオニバスの秘密5 根（承前）

前回のオオオニバスの根の話の続きです。

🌱 今日の話 26

オオオニバスの秘密5 根っこを見てみた（承前）

写真上が今回解剖したオオオニバスを運んでいる様子とその花です。特に花茎の太さに注目！

さて、根の話です。

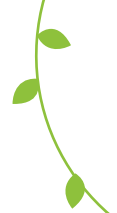
葉柄や花柄には、葉から取り入れた空気を根に送るための穴があります。写真中段左のちょっと紫色がかっているのが花柄、右が葉柄を切ったところです。

この穴は、昨日ご説明した葉柄の基部、茎に当たる部分でなくなります。空気は海綿状の茎の組織を通して根に送られるのだろうと思います。

根にも穴はありません。押すと水を含んだスポンジのような感じ です。良く見ると根は細いストローを束ねたような構造をしており、つぶすと泡が出てきます。このようにオオオニバスの根にはレンコンのような大きな穴はないのですが、空隙が多いために大量の空気を含んでいるようです。

写真中段の真ん中は、中心がオオオニバスで、左右は比較のためにおいた、同じく柔らかい根を持つアシの根です。アシの根の組織は海綿状で、押した感じは乾いたネギの白い部分のようです。右はオオオニバスの根の縦断面です。


花や葉から茎、根までの全体の縦断面が写真下です。これにてオ



オオニバスの根のお話はおしまいにします。

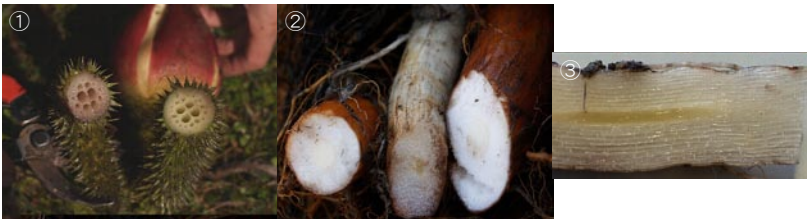
後から長い一言

花柄（花茎）にも穴があいているので、空気を取り込んでいるのでしょうね。でも蕾からなのか、花茎からなのか、あるいは両方なのか？
良く分かりません。





オオオニバスを岸まで運ぶ



①オオオニバスの花柄(左)と葉柄(右)
 ②中心がオオオニバスの根と両側がアシの根 ③オオオニバスの根の縦断面



オオオニバスの株を切ってみた

2010/10/28

牧野植物園に行ってきました

所用で高知県立牧野植物園に行ってきました。26日の朝はちょっとストーブをつけたほど新潟も寒かったのですが、高知もこれまでの暖かさが一転して、寒い日になったようです。

タクシーの運転手さんは「高知は暖かいですけど、冬でもワイシャツ一枚ですわ」(こんな言葉だったような気がします)と言うように、さすが南国土佐、新潟に比べれば暖かでした。

帰りに東京駅にウールの厚いコートを着た人がいたのですが、八戸行きの東北新幹線に乗っていきましたので、東北も寒かったんだろうな。新潟も昨夜到着すると気温8℃、本当に寒い夜でした。


今日の話 27 高知の植物

さて、高知県立牧野植物園の話です。滞在時間は3時間ほどで、今回は園内を見て回る時間ありませんでしたが、駐車場の正門から券売所までの「土佐の植物生態園」で咲いていた植物を紹介します。

写真上はダイサギソウ、大きなサギソウの意味です。環境省絶滅危惧植物 I B 類。農業大学校で無菌播種でふやしたものが植栽されていました。私も自生地では一度しか見たことがありません。良く育っていて、満開でした。

写真中段は、ハマアザミ。牧野富太郎先生の命名です。写真下はソナレノギク、四国から九州の主に海岸に分布します。ソナレは「磯馴」の意味だそうです。

生態園には、高知に分布する植物や牧野先生が命名した植物が、



自生地を考慮して植栽され、コンパクトですが自然な景観が
つくられています。私も大好きなコーナーです。今年の春には温室
もリニューアルしました。

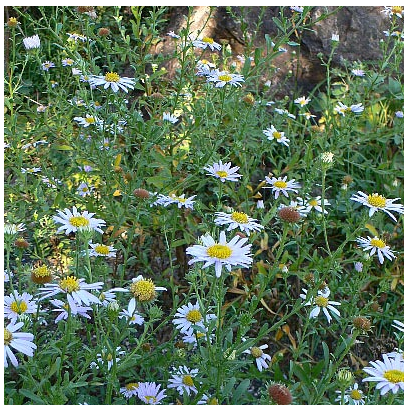
土佐・龍馬であい博も開催中です。是非牧野植物園にもお出かけ
ください。



ラン科の絶滅危惧種ダイサギソウ



牧野富太郎先生が学名をつけたハマアザミ



四国から九州の海岸に生えるソナレギク

11 月



「ヒョウタンノキ」

2010/11/04

ツツジのタネと近況報告

こんばんは。園芸日記担当の倉重です。最近更新を怠っていましたので、まずは近況報告を。

10月30日に長岡市緑花センター「花テラス」のオープニングセレモニーに出席してきました。

長岡市は花いっぱい運動など行政と市民が協働して熱心に緑化を推進しています。センター前の花びらの形の大花壇に植えられた草花もすべて市民によってタネから育てられたものです。センターでは園芸相談や教室、展示が行なわれ、育苗温室も見学できます。

<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/hana/>

今日は五泉市緑を育てる会の緑化教室で「新潟花の園芸史」の講演をしました。シャクナゲがお土産だったせいか、70名以上の参加があり、皆さんから熱心にお聴きいただきました。ちなみに日本一のシャクナゲ生産地である新潟でつくられている日本の園芸品種は、ほとんどが五泉市の育種家である樋口さんによって作出されたものです。

🌱 今日の話題 28 ツツジのタネ

そろそろツツジの果実が熟してきました。写真上、毛むくじゃらの手前3つが今年の果実です。もう少しふくらむと、先端が5つに裂開します。奥の割れているのが昨年の果実です。タネはほとんど入っていませんが、一年以上も残ることがあります。果実の中にはごく小さい長径1～2mmのタネが数百も入っています（写真中段）。果実が割れると、タネは風で遠くまで飛ばされます。

ヤマツツジの仲間は明るいところでないと育ちません。そのため、開花、結実して子孫を残すためには、明るい場所にタネを移動させる必要があります。日陰をつくる樹木の生えにくい崖地や伐採跡地、林縁にツツジが多いのはこのためです。

また、自然状態でも発芽してから開花まで3年ほどと短いのも特徴です。高木層が育ち、日が当たらなくなる前に、短期間に大量の小さくて軽いタネをつくり、次々と生育適地に移動し続けるのがツツジの特徴です。

ツツジのタネは秋に取りまきして、加温するとすぐに発芽して、冬でも成長を続けます。ツツジやアザレアの品種改良をする場合は、1年目の冬に加温することで2年で花を咲かせることができます。

写真下は熱帯の着生するビレアシャクナゲのタネです。この話題は折を見てご紹介することとして、今回はこの辺で。



後から長い一言

約300年前の江戸時代のツツジの流行期に作出され、現在も栽培される‘大紫’、‘白琉球’（かつては単に琉球と呼ばれていた）、‘本霧島’（これも霧島と呼ばれていた）は、ほとんど結実しません。これらの品種の古木が残っている理由のひとつに不稔の性質があるかもしれない。と言うことで、これらのツツジは、花柄つみをしなくても結実しません。

八重の場合、雄しべが花弁化し、雌しべも正常に発達しないことがあるのでほとんど結実しませんが、一重や萼はくが花弁化した二重（花を逆にすると腰蓑をつけているように見えるので、腰蓑咲きとも呼ばれる）は結実します。

ツツジのタネが小さくて軽いのは、主に風（動物や鳥につく場合もある）によって遠くに移動するためだと思います。ツツジは高木にはなりませんので、日の当たる場所への移動が必要なのだと思います。

林をつくるナラ（コナラ属の落葉種の総称）やカシ（同属の常緑樹の総称）は毎年同じ場所に大量にどんぐりを落として、親木の近くで



発芽しますが、暗いので数年で枯れてしまいます。時に親木が枯れたり、折れたりして、光が入るとその時に育っていた苗が次の林をつくれます。このように万が一の時にそなえて毎年タネを落としているような植物もあります。



ヤマツツジの果実



果実の中には小さなタネがたくさん入っている



熱帯高地に生えるピレアシャクナゲのタネ
遠くに飛ぶようにタネの両側に長い翼がある

2010/11/06

紅葉真っ盛り ニシキギとコマユミ

こんばんは。園芸日記担当の倉重です。

暑い暑いと思っていたら、最近は寒くて寒くて。悪天候の続く冬が近づいてきますので、その前に今が盛りの紅葉の美しい植物をご紹介します。今回は特にネタもないので、単なる植物紹介になりそうです。

今日の話題 29 ニシキギとコマユミ

当園で毎年当たり外れなくきれいに紅葉する木といえば、ニシキギとドウダンツツジが代表でしょうか。

園内の端にある流れの近くにはニシキギが植えられています。エントランスからはずいぶん離れている場所なのですが、毎年お客さんから、あの赤いのは何？と聞かれるほど目立ちます。庭木として植えられているので、枝につく翼をパリパリと取ったおぼえのある方も多いのではないかと思います。

ニシキギの品種 (cv. と略記する園芸品種 cultivar ではなく、f. と略記する植物分類上の品種 forma) に翼がないコマユミがあり、植物園の事務所の近くに植えられています。新潟県に自生するのは、ほとんどこのコマユミです。

タネのオレンジ色の外側は仮種皮^{かしゅひ}で、洗うと油っぽくて、種子にこびりついてきれいにむけませんし、手につくと石鹼で洗っても油がなかなか取れませんがこの油質の成分は栄養が豊富です。タネは果実が割れた後もぶら下がっていて、鳥に食われるのを待っています。ニシキギにとっても、仮種皮がついているとタネは発芽しない

ので、落ちて腐るのを待つよりも、鳥に食われて消化されてタネだけになって地面に落とされる方が短期間に広い範囲に子孫をふやすことができます。写真下は同属のツリバナのタネが入った鳥の糞です。



真っ赤に紅葉したニシキギ



ニシキギの枝には翼があるが、その品種のコマユミ(右)にはない



鳥の糞に入ってたつりバナのタネ

2010/11/20

ヒョウタンノキの秘密 1 蕾

こんばんは。園芸日記担当の倉重です。先週は風邪のためダウンしておりまして、しばらくぶりの投稿になりました。

まずは近況報告をば。12日には毎月行っている豊栄中高年大学の園芸教室でシャコバサボテンとシクラメンの話をしてきました。毎回本題よりも与太話の方が長い有様で、先月は葬式になぜキクが飾られるのかを、生徒さんと一緒に考えました（本題ではありません、念のため）。

14日は葛飾区の水元公園で「北限のオニバスと新潟の水草」の演題で講演しました。新潟市の福島潟は絶滅危惧植物オニバスの分布の北限なんです。

さて、本題。先日の夕暮れ、事務所内での話です。

「温室に夜出るんすよ」、「もう怪談の時期じゃないだろう？」

「でも何にもしていないのにできるんすよ」、「何が？」

「それ記事になりませんか」、「事と次第によっちゃ書くけど」

「じゃ、話します」と温室担当Hがぼつぼつと語った内容がヒョウタンノキの秘密でした。長い話だったので、数回に分けてお伝えしましょう。

今日の話題 30 ヒョウタンノキの秘密 蕾はどこから？

出るのは、当園の熱帯植物ドームに植えられているヒョウタンノキにだそうです。あせる気持ちを抑えて、まずはヒョウタンノキについてお聞きかせなくてはなりません。

ヒョウタンノキは、直径 30cm ほどの大きな球形のヒョウタンのような実がなるノウゼンカズラ科の常緑高木です。別名のフクベノキもヒョウタンの木の意味です。実際半分に分けて容器に使われるようです。

ヒョウタンノキの蕾は幹から直接出ます。しかし、ところかまわず出るのでなく、良く見ると写真中段で分かるように、葉（柄）のついていた跡（葉痕）の上部に出ているのが分かります。どうも蕾は葉柄の基部（葉腋）につくそうです。

温帯の樹木ですと、夏に花芽ができて冬を越して春に咲くものが多いのですが、熱帯植物の中には花芽ができてから長期間休眠し、その間に葉は落ち、幹が太って花芽がうずもれてしまい、幹から直接花が咲いているように見えるものがあります。これを幹生花かんせい かと言います。カカオやガジュマルもこれに当たります。

どうも、謎は花が咲いてから起こるらしいのですが、今回はこの辺で。

後から長い一言

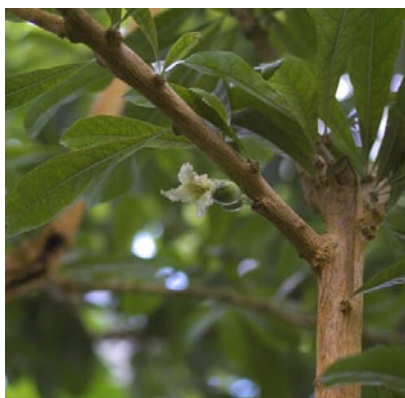
幹生花は、花芽ができてから何年も休眠するもので、熱帯の木本にしか見られないと思います（多分）。キンモクセイの花は幹から直接出ているように見えますが、良く見ると7、8花の集まりの元には短い柄（花柄）がありますので、幹から直接花が咲いているわけではありません。観察してみてください。



ヒョウタンノキの果実は小さめのスイカほどの大きさ



幹から直接出た蕾



こんな花が咲きます

2010/11/22

アオキの秘密

ネタ探しに日夜奔走している園芸日記担当の倉重です。

新潟の紅葉はそろそろ終わりに近づいてきました。植物園前のユリノキの街路樹もほとんど落葉し、モミジもちょっと盛りを過ぎた感じですが。昨日と今日は晴天に恵まれ、園内も予想以上の人出でにぎわいました。

秋も深まる中、今日は昼休みの散歩で気づいたアオキについて書こうと思います。

🌱 今日の話 31 アオキの雌雄は蕾で分かる？

アオキと言うと北側の便所の脇に植えられているような、どうでも良い木のようなイメージがあるのですが、幕末に植物採集のために来日したプラントハンターのフォーチュンが「私の訪日の目的の一つは、イギリスの在来品種のアオキの雌木のために、雄木の品種を手に入れることであった。」と書いているように大変な価値のあった植物でした。

当時のイギリスでは常緑で耐寒性があり、スモッグにも強いアオキが広く栽培され、フォーチュンに「日本の西洋ヒイラギ」と高く評価されていましたが、株がないために結実しませんでした（以上引用はフォーチュン「江戸と北京」1863年、日本語訳三宅馨、廣川書店刊—現在は講談社学術文庫から「幕末日本探訪記 江戸と北京」の書名で出版）。

今の時期の実はずっと緑色ですが、これから春にかけてだんだんと赤くなってきます。春に咲く雄株の花には雄しべだけ、雌株には雌しべ

だけがあります。雄株の花序は大きく 80 花ほどをつけますが、雌株は 10 花ほどしかつきません。

こんなことを思い出しながらヒメアオキの自生を見ていたら、雄と雌で花数が違うのだったら、蕾の形も違うのではないかと思いつきました。そこで早速蕾を比べてみました。予想どおり、下段の写真のように、左側の雄の蕾は花が多く入っているため丸くて大きく、右の雌の蕾は小さく平たいことが分かりました。

これで花や実のない時期でもアオキの雌雄が分かります！
発見の一日でした。

後から長い一言

プラントハンターと言っても、フォーチュンは日本では江戸と横浜の植木屋や知り合いから植物を入手していたようですね。たしか訪日後に中国から送ったサツキ（と言われますが、当時の資料や植物画を見ると日本のツツジの園芸品種だと思います）は、アザレアの重要な親になっています。

鎖国をしていた江戸時代に来日したケンペル、チュンベリー、シーボルトも自由に旅行をすることはできなかったようで、江戸の行き帰りに植物を観察、採集しています。

イギリスのヴィーチ商会のヴィーチがフォーチュンと同時期に北海道で採集をしています（イザベラ・バードの日本奥地紀行にも出てきます）。本格的な自生地探査となると九州や屋久島に行った大正時代のウイルソンでしょうか。



4月に撮影したヒメアオキ 果実の赤と葉の緑の対比が美しい



左の雄株には雄しべしかない花が80花以上、右の雌株には雌しべしかない花が十数花咲く



蕾の大きさも雄株(左)の方が大きい

2010/11/23

ジョン・レノン「ダブルファンタジー」プロジェクト

こんばんは。園芸日記担当の倉重です。今日はいきなり本題です。

🌱 今日の話 32

ジョン・レノン「ダブルファンタジー」プロジェクト

.....

ダブルファンタジーは元ビートルズのメンバーであったジョン・レノンの最後のアルバムのタイトルです。私はダブルファンタジーの名前は、ジョンとヨーコの二人のファンタジーの意味だと思っていましたが、レコーディング前に休暇をすごしたバミューダの植物園でみたフリージアの八重（英語でダブルと言います）品種‘ファンタジー’からでした。その辺のことはKAWADE 夢ムック「ジョン・レノン その生と死と音楽と」<http://www.kawade.co.jp/np/isbn/9784309977393> に詳しく述べられています。

そのダブルファンタジーをさがすプロジェクトが柳生真吾さんを中心に組織され、全国各地のメンバー「ファンタジスタ」がダブルファンタジープロジェクトを展開しています（詳細は <http://d-fantasy.com/> をご覧下さい）。

1st ステージでは品種さがし、2nd ステージはバミューダ植物園に‘ファンタジー’に類似の黄色の八重品種‘フローリアン’を贈る、そして現在の3rd ステージが夢を実現させるために全国で‘フローリアン’を育てる活動を行なっています（<http://www.kanshin.com/community/58024>）。

先般、新潟のファンタジスタの「すずめ」さんからお話があり

まして、当園でもプロジェクトに参加することにしました。

11月18日、当園の栽培管理ボランティア8名で、分譲されたフリージアの品種フロリアン200球、その他購入した一重白、一重紫、一重オレンジ、八重ピンク各200球、合計1,000球を植えました。当日の様子はすずめさんから詳しく紹介されていますのでご覧ください（みんなの趣味園よりもこちらの方が盛り上がっています）。

<http://www.kanshin.com/diary/2793132>

<http://www.kanshin.com/diary/2793373>

3月のチューリップ展期間中に開花させて、ちょっとしたイベントを企画中です。詳細が決まりましたらまたご報告いたしますので、皆様ダブルファンタジープロジェクトにご注目ください！



ダブルファンタジープロジェクトに参加して、
当園のボランティアもフリージア ‘フローリアン’ を植えつけ



作業終了後に記念撮影



全部で 1,000 球のフリージアを植えました

12月



「クリスマスローズ」

2010/12/04

クレマチス・スマラキフォリア開花！

こんにちは。園芸日記担当の倉重です。いろいろ仕事が重なって、久しぶりの投稿になりました。

🌱 今日の話題 33 速報 クレマチス・スマラキフォリア開花！

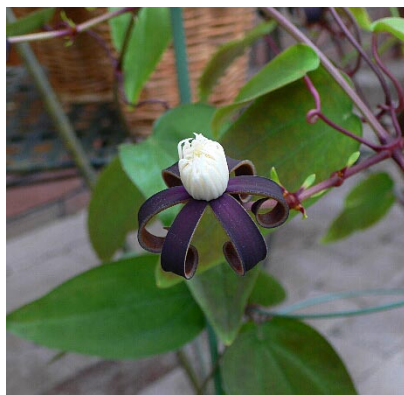
さて、クレマチス・スマラキフォリア (*Clematis smilacifolia*) が開花しましたので、ご報告いたします。はじめて見ました。感動です。

常緑のつるで、中国、インド、タイ、マレーシア、フィリピンに分布します。チョコレート色の蕾と、上向きに咲く紫の花色としべの白色が印象的です。葉は大きく、形は学名のおりユキザサ属 (*Smilacina*) のようです。

現在、当園の第3温室の住宅花壇に展示していますので、お見逃しなく！



クレマチス・スマラキフォリアが初開花



2010/12/07

芽が出た！ ダブルファンタジープロジェクト

こんばんは。園芸日記担当の倉重です。

なかなかまとまった記事が書けないのですが、いくつか途中になっているものの経過報告をして、今回もお茶を濁すことにしました。

内容が薄い分、当園の「植物園だより」でお楽しみください。

植物園だより

<http://botanical.greenery-niigata.or.jp/syokubutsuendayori/index.html>

今日の話題 34 フローリアンとヒスイカズラの経過報告

夢を実現するためにフリージア‘フローリアン’を育てようと言うのが、ダブルファンタジープロジェクトです（詳細は [11月23日の日記](#)をご覧ください）。

そのフローリアンの芽がやっと出てきました！他にも4品種を植えたのですが、‘フローリアン’が一番遅く、まだちらほら芽が見えはじめたような状態です。出ていない鉢も、土が盛り上がっていますので、近々に出芽すると思います。これで一安心。

もう少し芽が伸びたら、今度は温室で加温して3月中旬に咲かせる予定です。当方フリージアの促成栽培の経験がないため、チューリップ四季彩館の渡部さんに促成方法について教えていただきました。渡部さんありがとうございます！

さて、これも 10 月 19 日の日記以来になりましたヒスイカズラについてです。

ところで、温室担当 H、最近出てこないのですが、ご心配されたファンの方もいらっしゃると思いますが、バリバリ元気です。温室内にヒスイカズラの実生を明日にでも植えるべく準備中ですので、この場をお借りしてご報告いたします。

ヒスイカズラの種子 21 粒を 9 月 20 日に播種、現在は数 m ほどつるを伸ばし（くにやくにゃしていて測定不能）、順調に葉を展開しています。しかし、そのうちの 5 株は茎の色が薄く、葉もほとんどで出ません。全体に白く、アルビノのようですし、芽がたくさん出ている（カンキツのような多胚性？）、残念ながら枯れてしまうと思います。

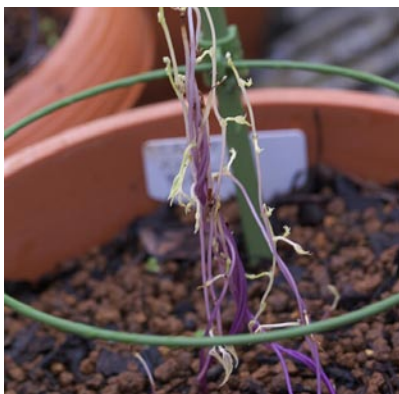
以上、経過報告でした。



ダブルファンタジープロジェクトからいただいたフリージア
'フローリアン'の芽が出てきた



ヒスイカズラもつるも、グングン伸びて数メートルの長さに



枯れてしまうであろうアルビノのヒスイカズラの実生

2010/12/08

半世紀ぶりに復活！キク秋葉錦

こんばんは。園芸日記担当の倉重です。

12月5日に終了しましたが、秋葉錦と言うキクの展示を行っていました。

十年来新潟の園芸の歴史を調べてきましたが、身近に偉大なキクの育種家がいらしたことをこれまで知りませんでした。今更ながら埋もれた過去の大きさに気づいた次第です。

今回はパネルの解説をもとに記事を書いたので、まじめになってしまいました。

🌿 今日の話 35 復活新津の菊 秋葉錦

全国各地で菊花会が盛んに開催されていますが、新潟を代表する展示といえば、弥彦神社で行われる弥彦菊まつりの奉納菊花展でしょう。

しかし、弥彦神社に先駆けて当園の所在する新津（新潟市秋葉区）では、大正から昭和にかけてキクの栽培が盛んで、昭和30年代には現在の弥彦神社と同じ6,000鉢規模の菊花展が行われていました。

その中心人物が、日本を代表するキク育種家である小林徹雄（明治27年～昭和39年）です。氏は、大正12年ごろから品種改良に没頭し、昭和12年には‘弥栄’が千秋会の日比谷公園菊花大会で優等賞、翌14年にも‘新津松阪’が一等賞首席、15年には‘阿賀野川’が最優秀賞を得、推奨品種となったため、育種家としても全国的に名を馳せました。

小林氏が生涯に発表したキクは 135 品種以上に及びますが、没後 50 年を経た現在は‘子安殿’、‘秋葉錦’、‘秋葉山’の 3 品種が残っているに過ぎません。どんな種類の植物もそうですが、時代の流れの中で古い品種が失われてしまうのは、悲しいことです。

これをお孫さんの小林千枝子さんが加茂農林高校と北越農事株式会社 に依頼してウイルスを除去し、今回の秋葉錦の展示と相成りました。

当園では日本のどこかに残っているであろう小林氏の品種探索に協力し、また菊花展も規模を大きくして、引き続き菊花展を開催したいと考えています。

後から長い一言

小林氏のいくつかの品種の写真が残っていますが、管物や厚物、江戸菊等さまざまだったようです。今回は小林さんと加茂農林高校のご厚意で希望される方に‘秋葉錦’を差し上げました。いくつかの団体では競技花にしたいとのことで、広く栽培されて長く保存されると良いなと思っています。



半世紀ぶりに復活した新津のキク ‘秋葉錦’



作出者である小林氏の業績を紹介



展示した ‘秋葉錦’ を栽培した加茂農林高校の井ノ口先生と生徒の皆さん

2010/12/09

木口さんのクリスマスローズの本

新年4日からアザレア展が開催されますが、今日はそのサブタイトルを展示担当のNと打ち合わせました。

「新年に華やかな展示なんで、来たくなるような良いタイトルがありませんか」と担当N、「う～ん。今年の流行を入れて、アザレア、なう。どう？」

「冗談ですよね」、「良いと思うけど」

そこに温室担当Hから、「春ぜよ、アザレア展が良いんじゃないですか」とすばらしい意見が出ました。私はいたく感心して、これだ！と思いましたが、私以外の賛同は得られなくてボツ。残念ながら、また後日に検討するということになりました。

🌱 今日の話 36 木口さんとクリスマスローズ

今から25年ほど前でしょうか、学生時代にシャクナゲをいただきに木口一二三さんを訪ねたことがあります。木口さんのお宅と新潟県立植物園はすぐ近くなのですが、その頃には植物園はありませんでしたし、近くで仕事をするようになるとも思ってもいませんでした。

その当時木口さんは、小型で青や黄色の有鱗片シャクナゲ（ヒカゲツツジの仲間、ミニシャクナゲとも呼ばれる）の交配や、非常に交配が難しい有鱗片シャクナゲとシャクナゲの交配種‘妖精’や‘ミニグラマー’を作出した育種家として有名でした。それ以前、1960年代にはアザレアの品種改良も行っていました。

その後、1994年からクリスマスローズの品種改良を手がけ、木口交配と呼ばれる丸弁でややうつむき加減に咲く花を数多く発表しました。これらが日本のクリスマスローズ流行のきっかけになったことは確かだと思います。写真の品種は2003年のものです。古くてすみません。

この度、木口さんが監修された「プロから学ぶクリスマスローズ—木口一二三と新潟のトップナーセリー」が新潟日報事業社から出版されました。さまざまな品種の紹介、木口さんの栽培ノウハウや新潟の生産者について詳しく書かれていますので、クリスマスローズファンには見逃せない一冊になっています。是非ご一読ください。

当園でもクリスマスローズを含めた新品種を展示する「花の新品種 in にいがた」（食と花の世界フォーラム組織委員会／新潟県立植物園）を3月9日～13日に開催します。この時に木口さんのクリスマスローズも展示できればと考えています。



新潟が誇る育種家、木ローニ三さん監修のクリスマスローズの本



木口さん作出のクリスマスローズ



これも木口さん作出

2010/12/12

ヒョウタンノキの秘密2 花

こんばんは。一ヶ月で赤ボールペンのインクを使い切った園芸日記担当の倉重です。

昨日はクリスマス展に多くのお客様がお越しくださいました。今年は迷路をテーマとしたご家族で楽しめる展示ですので、是非ご来園ください。

先週は神奈川県立フラワーセンター大船植物園に勤務されていたユリのスペシャリスト大石さんが来園され、東大と国会図書館に残されたイズユリ（ヤマユリとササユリの自然交雑種）の植物画についてのお話をうかがいました。勉強になりました！

さて、今回は11月20日のヒョウタンノキの話の続きです。

今日の話題 37 ヒョウタンノキの秘密2 動く花

当園のヒョウタンノキは温室で栽培しているので、人の手で雌しべに花粉をつけて結実させています。

写真上と中段は、朝9時46分に撮影した開花しはじめの花で、花の中心の白い雌しべの先が2つに割れて開いています。その後すぐに交配して、写真下が午後1時4分の状態です。雌しべの先が閉じているのがお分かりになると思います。途中で観察しませんが、花粉がつくと3時間ほどで雌しべの先は閉じてしまうようです。

ヒョウタンノキの花は朝から咲きはじめ、夕方から臭いにおいを出して満開になります。翌日には花は終わってしまいますので、本来自生地では夜ににおいて虫を寄せて、雌しべに花粉をつけさせて

いるのだと考えられます。受粉（受精）しないと花はそのまま結実せずに落ちてしまいます。

ところが！不思議なことに最近、交配できない高いところにも実がついています。夜に花に何かが来ているようです。さて何が出るのか？温室担当Hの推理がさえる次回最終回をお楽しみに。

後から長い一言

私もかいてみましたが、ヒョウタンノキの花は昼はまったくにおいません。夜だけのようです。今年の夏の夜間開園の時にお客様ににおいをかいていただいたのですが、皆さん「くさい！」とおっしゃっていました。不思議ですね。



朝 10 時前のヒョウタンノキの花
雌しべの先が割れて開いている



正面から。この時に受粉した



午後 1 時の花。受粉した雌しべの先は閉じている

2011 年 1 月



「ホーズ・イン・ホーズ」

2011/01/09

あわあわムクロジのタネ

いや～お待たせいたしました！12月12日以来の記事になります。園芸日記担当の倉重です（誰も待ってませんよと、隣から担当Oの声）。

遅ればせながら、皆様明けましておめでとうございます。本年も多くの皆さんにご愛読いただけるようがんばりますので、よろしくお願い申し上げます。

1月4日から「百花繚乱 アザレア展」がはじまりました。展示期間中の1月23日には小生がガイドをする「アザレアツアー」を行います。

まずは12月のご報告から。23日に日本植物園協会の第6回植物園シンポジウムが東京で開催され、「生息域外保全 暮らしのなかで植物をまもる」をテーマに「ふるさとの植物を守る 植物園の植物多様性保全活動」のタイトルで講演してきました。翌24日は新宿御苑で行われた、同協会の植物多様性保全事業ワークショップに参加しました。これまでの植物園の保全事業について総括し、今後の保全に関する意見交換を行いました。

今日の話題 38 ムクロジのタネ

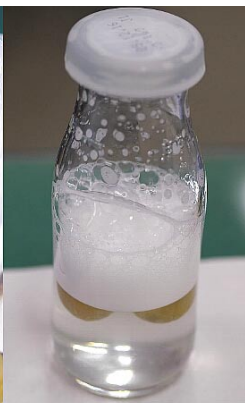
当園の専門相談員の片山先生がムクロジの果実を持ってきてくださいました。

ムクロジはムクロジ科の落葉高木です。「日本の野生植物」（平凡社）には、新潟県以南に分布するとありますが、新潟市周辺で見たことはありません。この果実がなっていた木は加茂市にあるそうで

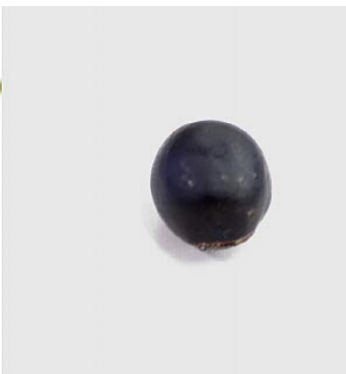
すが、これが自生かは疑問との由。私はモクゲンジと同じく、ムクロジは帰化なのかと思っていました。

ムクロジの果実は直径 2.5cm 程度で、すっぱいにおいがします。かじってみたら、舌がしびれました。果肉にはサポニンが含まれているため、水に入れてシェイクすると良くあわ立ちます。サポニンとシャボン（ポルトガル語）は同源（ラテン語の *sapo*）で、石鹼のことなんですね。見てみたら化粧品にもムクロジサポニンが使われていたので驚きました。ためしに手に塗ってみたところ、すべすべしたような気がしました。

果肉をむくと、丸くて硬い、真っ黒な種子が入っています。直径は 1.3～1.5cm。羽根突きの羽根の玉や数珠に使われます。硬い種皮をペンチでむくと中にはナッツ（子葉）が入っています。これが甘みとももちもち感があってすごくおいしい！チョコに入れたら最高でしょう。



ムクロジの果実にはサポニンが含まれていて、水に入れて振ると泡が出る



皮をむくと、黒いタネが入っている。羽根突きの玉がこれ。



さらにむくとナッツが!これがおいしい

2011/01/11

絶滅危惧種 ヤクタネゴヨウ発芽

こんばんは。園芸日記担当の倉重です。週末は本格的な雪になり、20cm以上積りました。

2007年にイギリスの友人ラッシュフォースさんからヤクタネゴヨウについてのメールをもらいました。

ラッシュフォースさんは、シャクナゲや針葉樹など木本植物に造詣が深く、現在は独立して樹木コンサルタントの仕事をしていますが、以前はヒリヤー樹木園（Hillier Arboretum）の園長をつとめ、世界各地で植物探索を行っています。

<http://www.keithrushforth.co.uk/>

今日の話題 39 ヤクタネゴヨウ発芽

ヤクタネゴヨウは屋久島と種子島に自生する日本固有のマツ科の針葉樹です。絶滅危惧植物のI Bに指定されており、屋久島に1,000～2,000個体、種子島には200個体が自生するとされています。

ラッシュフォースさんは、ヤクタネゴヨウがヨーロッパではほとんど栽培されていないので、研究のために導入したいとの由。いまだ実現していませんが、こんなことがきっかけとなって当園でもヤクタネゴヨウの保全栽培をすることにしました。

ヤクタネゴヨウで有名なのは鹿児島島の磯庭園ですが、1本しかないこの木にはタネがありません（自家不和合性）。そこで鹿児島大学等の協力により種子を入手しましたが、**しいな**であつたらしく全く発芽しませんでした。これが2008年のことで、しばらくそのままになっていました。

状況が変わったのは、昨年ことです。お世話になっている方にヤクタネゴヨウについてお尋ねしたところ、鹿児島県の森林技術総合センターをご紹介いただきました。当園から依頼し、ヤクタネゴヨウのタネ 30 粒を譲渡していただきました。

ヤクタネゴヨウの球果（松ぼっくり）はアカマツなどよりも小さいのですが、タネは他のマツに比べると長径 1 cm 以上と非常に大きく、充実しているものは真ん中がぶっくらと膨らんで、水に入れると沈みます。

10月に播種、その月のうちにほとんどが発芽しました、写真下の右側は11月10日、左側は同月30日に撮影したものです。

4年越しで導入した貴重なヤクタネゴヨウ、数年後には園内に植栽できると思います。

後から長い一言

ラッシュフォースさんは奥さんとアルパカの品種改良と販売をしているようです。かわいいけれど、結構高いものですね。

植物園など自生地以外で保全することを栽培保全や生息域外保全と言うのですが、国際的にも植物園の行なうべき重要な仕事だとされており、当園でも積極的に収集を行なっています。



ヤクタネゴヨウの松ぼっくりはやや小型



タネはぷっくりと太っている



10月に播いたタネは一ヶ月で発芽

2011/01/13

ヒョウタンノキの秘密3 果実

こんにちは。園芸日記担当の倉重です。

さて今回で「ヒョウタンノキの秘密」も終了です。第1、2回をお読みになっていない方は、11月20日と12月12日の日記を先にご覧ください。話を引っ張った割には、たいしたことのない落ちになってしまいました。

🌱 今日の話 40 ヒョウタンノキの秘密 犯人は誰だ—解決編

人工交配しないと実がならないヒョウタンノキが、なぜ人の手が届かない高い枝にもなるのか？その謎を解いたのが温室担当Hです。

「夜、鍵を閉めに温室に行くと、地面にうごめく怪しい影が見えたんっす」、「何なの？」

「多分、コックローチっす！関係ないけど、若い人はGと言うんですよね。そいつが、夕方から臭いにおいを出すヒョウタンノキの花を求めて木に登って…」、「受粉してるのか！」

「多分、そっすね」「駆除しろ！」と言うことで、専門業者にお願いしました。今はいないようですので、ご安心を。

このように正に熱帯の生態を再現している当園の温室。すばらしい環境なんですね。

写真は昨年11月4日に割ったヒョウタンノキの果実です。果皮が硬いので、半分に切って、果肉を取り除いてお椀として利用しま

す。当園でも温室のヒョウタンノキの下に展示していますが、非常に軽くて丈夫です。

果肉は繊維質で白に紫色が入り、メロンのような香りがします。「世界有用植物事典」(平凡社)によれば「若い果実はピクルスにされ、種子は調理して食用にされる。」とありますが、つくり方が書いていないので、料理には挑戦していません。実際に見ると、あんまりおいしくなさそうです。

是非、皆さんも来園された折には、温室のヒョウタンノキの実がなっていないか、見上げてみてください。



ヒョウタンノキの果実の中は、繊維質でメロンの香り



食用にされるそうだが、これを見たら食べる気にならなかった



中にタネが入っている

2011/01/18

ホースの中にホース

こんばんは。園芸日記担当の倉重です。

当園では「百花繚乱 アザレア展」を開催しています。それについて何か書こうかと思いましたが、今回はツツジの花形について。

今日の話題 41 ホース・イン・ホース

アザレアは英名（かつての属名）ですが、英語圏では日本で言う冬に鉢植えて販売されるアザレアのことだけではなく、レンゲツツジなどの落葉性ツツジやヤマツツジなどの半常緑から常緑性のツツジの総称として用いられます。日本で言うアザレアは、英語ではベルジアン・アザレア（ベルギーで改良されたツツジ）またはベルジアン・インディアン・アザレアと呼ばれます。このインディアンの意味について書くと長くなりますので、またの機会に譲るとして、日本では昔から栽培されるツツジをツツジ、明治以降に海外から導入した主に鉢植えにするツツジをアザレアと呼んで区別するようになりました。昔は西洋躑躅や洋種躑躅と呼んでいましたが、カタログなどを見ると昭和初期からアザレアの名が主流になったようです。

さて、ツツジやアザレアの花を正面から見ると、5枚の花びら（基部ではくっついている）の外側にさらにもう一重の花びらに包まれている種類があります。クルメツツジなどはこの花形が多く、花全体が円形に近くなりかわいらしい感じがします。写真上は江戸キリシマ系の園芸品種‘八重霧島’です。日本では二重咲きと呼びますが、これが英語になると、ホースの中にホースがある花形（hose

in hose) と呼びます。感覚が違うのですが、とても面白い表現ですね。

この外側の花びらは、^{がく}萼が花卉に変化したものです。写真中段で、左から右に行くにしたがって、萼が花びらに変化していくのがお分かりになると思います。左は‘本霧島’、中2つが萼が不完全に花びらに変化した‘蓑霧島’、右が萼が完全に花びらになった‘八重霧島’です。「蓑」は腰蓑をまどっているように見えることからつけられた名称で、このような咲き方を腰蓑咲きまたは蓑咲きと呼びます。腰蓑咲きの代表品種として萼が白い‘二順霧島’（写真下）があります。

‘蓑霧島’と‘二順霧島’は世界初のツツジの専門書「^{きんしゅうまくら}錦繡枕」（1692年）にも掲載されている古品種ですが、今ではめったに目にする機会がない貴重な種類です。

後から長い一言

上段の写真、‘八重霧島’の雄しべの先の光っているように見える白い部分は花粉なんです。葯の先端には花粉孔と呼ばれる穴が2つ開いていて、そこから花粉が出ます。花粉は粘糸と言うネバネバした糸でつながっています。花も終わりの時期になると、花粉が雄しべの先からダランと鼻水のように（失礼！）垂れ下がります。



江戸時代に作出された二重咲きのツツジ ‘八重霧島’



萼が花びらに変化していく様子 完全に花弁化したものを二重、
英語でホーズ・イン・ホーズ(ホースの中にホース)と言う



がくが花弁化した ‘二順霧島’

2011/01/24

モンステラの甘い果実

こんばんは。園芸日記担当の倉重です。

今日は温室担当Hのご推薦、モンステラについての日記です。

「この間、言っていたモンステラを書くぞ」、「そういえば、はなかつぱ（NHKの番組）にモンステラが出たっす」

「はなかつぱって、なんだか知らないけど、それで?」、「この前の番組で頭からモンステラを生やして、そこからモンスターが出てきたような…」

「そう?」、「落ちは思いつかないっす」

と言うことでしたが、確かにモンステラ（学名）は奇形、奇態の意味で、モンスターと同じ語源です。葉の形や穴の空き方が、それぞれの葉で変わるからなんでしょう。さすがNHK!

今日の話 42 モンステラの果実

当園の熱帯ドームに植えられているモンステラは壁面をよじ登って、長さ10mくらいまで伸びて、非常に大きな葉をつけています。

のびのびと育ったモンステラは毎年花を咲かせます。温室担当Hによれば、決まった時期に開花するのではなく、一年中ただらと咲いてようです。同じサトイモ科のスパティフィラムやミズバショウのように小さな花が集まって柱状になり（肉穂花序）、クリーム色の苞（ぶつえんぼう仏炎苞）に包まれます。

苞が茶色になって枯れる頃になると、果実が熟してきます。そう

経たないうちに下に落ちますが、パイナップルのような、ものすごく甘いにおいがします（「世界有用植物事典」には果実の成熟に1年かかると書いていますが、そんなにかからないと思います）。多分、このにおいて南米の自生地では動物が集まるのだらうと思います。果肉は消化され、タネはフンと共に他の場所へまかれることで、生育地を広げているのでしょう。壁面のだいぶ上に咲くので、花のにおいをかいだことはないのですが、果実の方が強烈に香る植物もあるんですね。

さて、ひろった果実（果序）を切ってみると、トウモロコシのようにバラバラになりました。普通はひとつひとつの果実の中にタネが入っているのですが、全く見当たりませんでした。なぜかは分かりませんが、単為結果するのかもしれませんが。また、観察を続けてみます。

後から長い一言

モンステラの花（苞）はスパティフィラムに似ています。確認はしていませんが、つる性のサトイモ科植物は土の中に芋はできないのではないかと思います。

果実は、スナックパインの様です。熟していない果実を食べると、のどを刺激するそうですが、もちろん食べてみました。ほんのり甘いのですが、香りから想像するよりも、ずっと薄い味でした。



モンステラの果実



熟して落ちるころになるとパイナップルのような甘い香りがする



割ってみたが、タネは入っていないかった

2011/01/26

サツキはインド原産？

こんにちは。園芸日記担当の倉重です。

今日の話は1月18日でちょっとふれた話、アザレアの英名がなぜベルジアン・インディアン・アザレアと言うかについてです。私以外に書いているのを見たことがありませんので、必読です。

今日の話題 43 インディアン・アザレア

ツツジ（ヤマツツジ節）は日本や台湾、中国東部など限られた地域に分布します。この仲間ではじめてリンネによって学名がつけられたのがサツキ（*Azalea indica*）で、1753年のことでした。

なぜ日本原産のサツキに「インドの」の意味の学名がつけられたのか？私も不思議に思って調べましたが、そのヒントがウイルソンの「A monograph of azaleas」（1921）にありました。

サツキがヨーロッパに導入された記録は1680年までさかのぼり、バタビア（ジャカルタ）からオランダに渡ったとされます。当時、「インド」は、インドだけではなく、ヨーロッパから見てインドより東の未知の国々の意味で使われていました。The East Indies（東インド）も同じ意味に由来する表現です。リンネはこれらの記録を参考に、バタビアが東インドに含まれることから「インドの」の意味の学名をつけたのだと思われます。ウイルソンは長崎からバタビア経由でオランダに入ったのだろうと推測しています。

ちょっと横道に逸れますが、沖縄の古称「うるま」は、歌などではどこか遠くの南の島のイメージを表すのだと何かに書いてありましたが、インドもそれと同じことなのでしょう。

閑話休題。その後に本格的にヨーロッパにサツキやその他の野生種、園芸品種が本格的に導入されたのは 1800 年代はじめのことで、どれもこれもとにかくサツキの学名が与えられました。そんなことから、アザレアもベルギーで改良されたサツキ（ベルジアン・インディアン・アザレア）と呼ばれたのです。

日本にアザレアが里帰りしたのは明治中期だとされますが、学名から判断したのか、当時の園芸書にはアザレアはインド原産であると書かれています。アザレアの本家本元は日本だと気づいたのは、昭和に入ってからようです。

写真は自生のサツキ、サツキ‘日光’、アザレアと交配されたサツキ‘好月’。

後から長い一言

学名は変更できないのですが、その内容が正確な自生地や形態をあらわしていなくても良いのです。要はこの植物がこういう名前であるという符号に過ぎないんです。でもリンネが分かっていたら、ジャポニカとつけたかもしれません。アザレア属は後にツツジ属（*Rhododendron indicum*）に吸収され、サツキの今の学名は *Rhododendron indicum* となっています。ジャポニカムはレンゲツツジの学名に使われています。

話は違いますが、奄美大島から沖縄に分布するケラマツツジが本土に渡って、それまでのキシツツジやモチツツジの園芸品種と栽培下で交雑したのが、平戸ツツジや‘大紫’等の大輪のツツジです。昔はこれらを琉球性と呼びました。花色が紫色の大輪の品種は成立にケラマツツジが関与しているようです。

平戸ツツジは大輪のツツジの代名詞になりましたが、品種名がつけられ、有名になったのは昭和も戦後からです（江戸時代の記録にも平戸躑躅が名はありますが、今のものとは違うと思います）。



屋久島で見たサツキ。川沿いに生える



サツキ '日光'



アザレアとの交配で作出されたサツキ '好月'

2月



「ミケリア・マウディアエ」

2011/02/01

ツツジとサツキはどう違う？

こんにちは。園芸日記担当の倉重です。

先回もサツキの話をしましたので、時期外れではありますが、この勢いでこれまでに少なくとも100回は質問された「サツキとツツジはどこが違うのか」について書くことにしました。

ユリやランという言葉は特定の植物ではなく、ラン科、ユリ属とグループを指すように、ツツジもサツキやヤマツツジ、レンゲツツジなど、シャクナゲよりも葉が薄くて、枝が細い落葉または常緑のツツジ属の総称として使われます。「サツキ」はその中のサツキの野生種またはその園芸品種のことです。サツキはヤマツツジの渓流型と考えられ、葉は常緑、増水時に流されないように葉が細長いのが特徴です。

これが答えなのですが、しかし、なぜ同じツツジの仲間に2つの名前が用いられてきたのでしょうか？その歴史をたどると江戸時代に行き着きます。

🌱 今日の話 44 ツツジとサツキはどう違う？

江戸中期の1692年、江戸で「きんしゅうまくら錦繡枕」と言うツツジの種類や栽培を解説した世界初の専門書が伊藤伊兵衛によって版行されました。時は後に「元禄のツツジ」と呼ばれる流行の最中であり、さまざまな品種が作出されました。

江戸中期は、戦の心配もなくなり、人々の暮らしが豊かになった時代であり、余暇の楽しみとしてツバキやボタンなど、さまざまな植物の品種改良や栽培が流行し、現在の園芸の基礎が築かれた時代

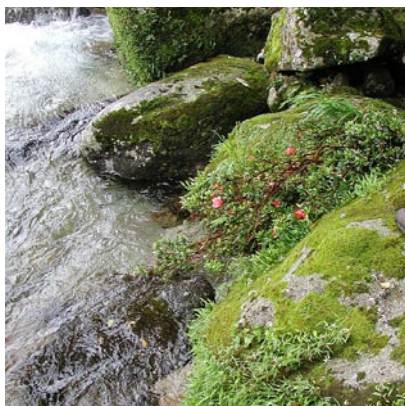
でした。

「錦繡枕」は5巻からなり、3冊が「躑躅^{つつじ}」、2冊が「さつき」という構成になっています。その中で、いわゆる「つつじ」は春（旧暦1～3月）に咲き、「さつき」は初夏（旧暦4月）咲くと記されています。その十年ほど前に刊行された日本最古の園芸書といわれる「花壇綱目」（1681）にはツツジとサツキは区別されていませんので、ブームに伴って現れた数多くの品種を大別するために、現在の4～5月中旬に開花するものを「つつじ」、5月下旬から6月に開花するものを「さつき」と呼びはじめたのではないかと考えられます。

後から長い一言

ツツジ属の出葉期は大体どの種類でも5月中旬ですので、ツツジは花後に、サツキは開花前に新芽が伸びることで、大方「つつじ」と「さつき」を区別することができます。開花が7月と非常に遅いバイカツツジは完全に葉が伸びきってから小さな花を咲かせますので、葉の下にかくれて、良く見ないと気づきません。

野生のツツジからアザレアに至るまで途切れることなく栽培が続いていたことを思うと、本当に長い歴史を感じますね。



サツキはこんな場所に生えます



「錦繡枕」(1692)は世界初のツツジの専門書



江戸時代に「さつき」に分類されていたマルバサツキ 屋久島の海岸沿いに生えていた

2011/02/03

激レア！冬あじさい

こんにちは。園芸日記担当の倉重です。

広報担当のOから、日記のタイトルのつけ方がなっていないと指摘されました。内容はともかく、衝撃！超絶！こだわり、かしこい～術、～のコツ等、キャッチーなものを使うことが必要だそうです。早速教えてもらったものから最も適した「激レア」を今回は使ってみました。

激かどうか分かりませんが、今回は友人が中心となって作出したレアなアジサイの紹介です。数年前から販売されていますし、「花ぐらし」（家の光協会）2010冬号に取り上げられていますので、皆さんももうご存知かもしれません。

今日の話題 45 冬に咲くアジサイ

毎年この時期になると群馬県の農業技術センターから送られてくる「冬あじさい」を温室内に展示しています。スプリングエンジェルと言うシリーズで、今年は‘ブルーエレガンス’をいただきました。

文字どおり「冬あじさい」は、室内で栽培すると2～4月に開花する全く新しいタイプのアジサイで、葉は常緑、花はセイヨウアジサイのように華やかで大きい特徴があります。本物を見ると、実に豪華な花だと感心します。

冬あじさいは、台湾等に自生する常緑性のトキワアジサイ (*Hydrangea chinensis*) と、落葉性の西洋アジサイの交配によって作出されたのですが、この組み合わせでは、通常はタネができません。それを群馬県農業技術センターがバイオ技術（胚珠培養）を使っ

て、世界ではじめて作出に成功しました。品種改良を行なった友人に聞いたところ、思ってもいなかった組み合わせから、すばらしい花が出たとの由。やっぱり、交配は実際にやってみないと分かりませんね。

その他にも、花がとても大きくてフリルが入る‘フリルエレガンス’、これも花が大きくて八重の‘ピンクエレガンス’がありますが、どれもすばらしい品種です。

写真下は横山園芸さんから購入した原種シクラメン、アルピヌムとコウムです。今が満開です。

後から長い一言

冬あじさいは、流通量は少ないのですが、もう普通に販売されています。写真の株は群馬県みどり市の小内園芸さんが生産したもので、直接購入することもできます（ネットで検索して、電話かファックスでお問い合わせ下さい）。

当園でも数年来栽培していますが、いつも今頃に開花します。花後に切り戻すともう一度7月に咲きます。葉は常緑で、小ぶりで深い緑色、花は本当に大きいですよ。今は薄いピンクですが、‘ブルーエレガンス’ですので、*だんだん*と青味を帯びてくるのだと思います。

冬季は室内（無加温で可）で管理するのですが、最低気温が0℃以上の地域では露地植えも可能だそうです。セイヨウアジサイのように大きくはならないと思いますが、茎が多少弱いので、支柱が必要になります。



冬あじさい ‘ブルーエレガンス’。2月に咲く



アジサイの本当の花はこれ



シクラメンの原種アルピヌムとコウムも花盛り

2011/02/06

大船植物園

昨日は打合せで神奈川のフラワーセンター大船植物園に行ってきました。一昨日は新潟の魚沼で会議だったのですが、市の方にお聞きしたところ積雪3.7m、一方の大船は新潟からは想像もできない春の陽気でウメもほほ咲きそろっていました。

写真上はミケリア・マウディアエ (*Michelia maudiae*)。中国産のオガタマノキの仲間。花は香ります。最近はおガタマノキの仲間が数多く導入され、一部販売されていますが、これははじめて見ました。今回一番の収穫です。エントランスホールと展示場に飾られていました。

展示場ではビオラの人気投票が行なわれていました。写真中段はサカタのタネのフルーナ ラベンダーピンクです。これはきれいですね。実家から自転車で行けるところにサカタの売店がありまして、子供の頃から良く通いました。そんなことで今でもサカタのタネには特別な思いがあります。現在、園芸通信（サカタ友の会の会員に配布される読み応えのある月刊誌）に「ガーデン花木」の魅力連載中です。皆さんも是非ご覧下さい。入会は <http://www.sakataseed.co.jp/product/consumer/fanclub/index.html> からどうぞ。

最後は大船の植物園日記にも取り上げられていましたが、満開に近いウメのコレクションから‘高砂枝垂’です。大船はこれから見ごろとなるシャクナゲ、シャクヤク、ボタン、ハナショウブ等のコレクションもあり見所いっぱいです。皆様是非お出かけください。

以上、今回は大船植物園の宣伝でした。

いつか機会を見て、数年前に大船植物園で発見され、島根大学と

共同で調査を行なった宮澤文吾の「躑躅^{つづじ}類調査」（大正年間）についても書こうと思います。

論文の PDF はこちら。

http://www.jstage.jst.go.jp/article/hrj/7/2/323/_pdf/-char/ja/

後から長い一言

オガタマノキは新潟では見ませんが、甘いバナナの香りのするモクレンのような形の小さな花を咲かせる常緑樹です。マウディアエの花は大きくてマグノリア（モクレンの仲間）のようで、オガタマノキよりもスツキリとした甘い香りでした。



オガタマノキの仲間、ミケリア・マウディアエの花は良い香り



ビオラのフルーナ ラベンダーピンクはサカタのタネ作出



ウメ ‘高砂枝垂’ も開花

2011/02/13

洋ラン展なう

この間、ドーナツ屋のCMを見て、エンゼルティディパンを買ってきてもらったのですが、顔が違う！かわいい顔のCMのとは違って、微妙に変な顔になっていました。これも個性と思って食べましたが、味は同じなんだろうな。そんなことを思った園芸日記担当の倉重です。

趣味の園芸3月号(p.92)に3月11日～13日に開催する「春一番、にいがた花三昧。」が紹介されました(内容は9月26日の日記参照)。植物園ではチューリップ展と「花の新品種 in にいがた 2011」を開催します。しかもなんと！クイズ&スタンプラリーの景品は、マレーシア旅行ご招待。また、3月12日にはダブルファンタジープロジェクトのイベント「ファンタジー in 新潟県立植物園 ジョン・レノンゆかりのフリージアを育てよう」をファンタジスタと一緒にいきます (11月23日の日記参照)。皆様ぜひお出かけください。

今日の話 46 温室担当Hの奇妙な行動

2月9日から洋ラン展がはじまりました。今日は展示準備中に追われていた温室担当Hの奇妙な行動についてのレポートです。

洋ラン展も近づいてくると、温室担当Hがこそこそと夕方に温室に行っています。挙動不審ですので、尋問しました。

「毎日夕方に何しに温室に行ってるの?」、「何でもないっす」
「何かにおうな」、「何でもないっす」さっと何かを隠します。
「見せてみる」、「…」と差し出したのがビールの空き缶でした。

「なんだこれは!」、「ビールでも発泡酒でもかわりないっす」と意味不明な返事。

「まさか、おまえ」、「においが強い1日目が効果ばつぐんっす」

「???'」

さらに問い詰めると、熱帯植物ドームも会場にする洋ラン展のために、ナメクジ退治をしているとのこと。ものがアルコールだったため、言いづらかったようです。ビール捕獲法は効果絶大で、昨年よりもナメクジの被害は少ないそうです。

熱帯植物ドームと第2温室で大規模に開催される洋ラン展。県内の6つのラン愛好団体の協力を得て、華やかに開催中です。

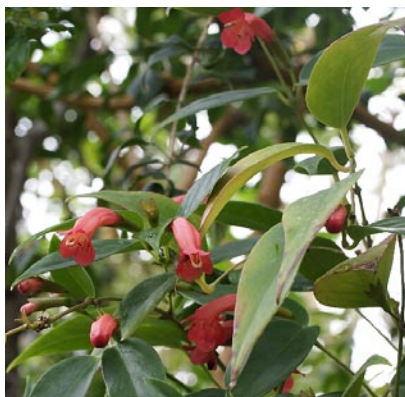
写真は洋ラン展、ついでに撮った熱帯産のブルーベリーの仲間 (*Vaccinium cordifolium*)。ずいぶん前の調査の折、ボルネオ島で採集したものです。これも同じ時に採集したエスキナンサス。新種かもしれません。



熱帯ドームでのランの展示。豪華！



ボルネオ島原産のブルーベリーの仲間コルディフォリウム



これもボルネオのエスキナンサス。新種かも？

2011/02/19

激写！坊主頭がニョキ

こんにちは。園芸日記担当の倉重です。

先週つくったキウイのジャムを展示担当のNさんに上げたので、感想を聞いたら、「甘かったです」と言われました。確かに私のジャムはだいぶ甘いのですが、この答えは微妙です。その後で「おいしかったですよ」と言われたのですが、取ってつけたようなお褒めの言葉のような気がしました。


最近ではジャムを年中つくってしまっていて、品種ごとに試しています。先日はイチゴの‘越後姫’でつくりました。すっきりとした甘味と明るい赤色、香りも良いジャムになります。今日のお話はイチゴジャムのような赤い花を咲かせるエスキナンサスです。

🌱 今日の話題 47 エスキナンサスの花

先日、hanuraさんから、ディクソニア（木性シダ）にからみついている植物について質問を受けましたので、今日温室に見に行きました。小豆色の花と言うことでしたが、蕾を持ったイワタバコ科のエスキナンサスでした。種類はラディカンス (*Aeschynanthus radicans*) だと思います。

赤茶色の萼がくが花のように見えますが、写真でも分かるように、その中に赤色の蕾が坊主頭のように見えます。咲いた姿からは想像がつかない形です。エスキナンサスでは、以前はスペキオーサス (*A. speciosus*) の鉢植えが良く売られていましたが、最近は見かけなくなりました。

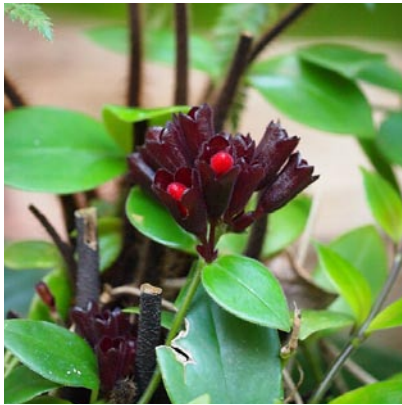
アジアに分布するエスキナンサスの花は赤が多く、鳥によって受



粉され、近縁の南米原産のコルムネアはハチドリを寄せるために花が黄色だと言うようなことを何かで読んだ記憶があります。果実に赤が多いのも鳥に認識されやすい色だからだと思います。

イワタバコ科の植物では最近セントポーリアの人气が再燃していますが、その他にもコルムネアやシンニンギア、ラモンダ、ストレプトカーパス等々、マニアの心をひきつける種類がたくさんあります。お好きな方もいらっしゃるのではないかと思います。

写真下は近くに咲いていたセイシカ（ツツジ属）の花です。



エスキナンサス・ラディカンス。がくの中に坊主頭のような赤い蕾が見える



開花するとこんな花



近くに咲いていたツツジ属セイシカの花。沖縄県に分布

2011/02/21

昔の園芸カタログが面白い

こんにちは。園芸日記担当の倉重です。

今度のチューリップ展は、大正から昭和初期にかけてのレトロな雰囲気を出すようです。展示担当のNとHが打ち合わせをしていたのですが、私は園芸の歴史を調べていますので他人の迷惑かえりみず、途中から話に割って入ってしまいました。

🌱 今日の話 48 レトロな感じ チューリップ展

「チューリップ展は解説パネルもレトロな雰囲気を出した方がいいよ」と私、「どんな感じにしたらいいんですか」と担当N。

「そうだな、このカタログにある宣伝文句を使ったら。」「え〜と。長尾草生園の明治42年のカタログ。チウリップ（中略）四五月美麗ナル大花ヲ開ク西洋婦人ノ大ニ愛賞スルモノナリ」

「使えませんね」

「これ、これ好きだな」、「どんなのですか?」、「長尾草生園の昭和6年のカタログ。目覺る如き色彩の美春の花園に一人女皇の如く咲き誇る花はチウリップに比すべきものはありません」

「それ、さっきから3回くらい言ってたっすよ」と温室担当H。

「よっぽど気に入ってるんすね」、「そうだっけ?」

「これもいいよ」、「栽培頗る容易にして初めての御家庭にても優良なる球根さへ植込めば陽春の候艶麗な目覺むる如き美花を咲かす事が出來ます」

「これも最高だな」、「越後の球根は何故良いか 球根充實肥大 價格低廉 品質優秀」

「アザレアの宣伝文句。これ読んだら買いたくなるな」、「御買上の御客様からはキット◇之れは良い苗◇と御満足して頂ける事と固く信じて居ります」

「シャクナゲのもなかなか書けないよ」、「ロードデンドロンは世界的園藝流行界の寵児です 弊園は此植物に最も多くの研究と栽培をなしつつあります」

「それをどうやって解説に使うんですか?」、「う〜ん分かんないけど。何かいいんだよな」

と言うことで、打ち合わせの邪魔になっているようでしたので、早々に帰宅しました。

後から長い一言

大正から昭和初期にかけては、チューリップの表記は、チウリーブ、チウリップ、他にもあったと思いますが、揺れがあるようです。



長尾草生園（新潟市）の昭和 12 年のカタログのシャクナゲ



昭和初期の球根販売用の紙袋



阪上牡丹園「園藝報知」大正 7 年（兵庫県）のバラ

3 月



「昔の園芸カタログ」

2011/03/01

昔の園芸カタログが面白い2

こんにちは。園芸日記担当の倉重です。

あさってから出かけるので、園芸日記なんか書いている場合ではないんですが、宣伝もありますので今日はさらっといきます。

フラワーセンター大船植物園で、本日から6日まで「のとキリシマツツジ展」が開催されます。4年ほど前から島根大学の小林先生と能登でツツジの調査を開始し、現在までに300株以上の「のとキリシマツツジ」（江戸キリシマ系ツツジ）の古木を確認しました。今回はパネルと盆栽で「のとキリシマツツジ」を紹介します。発見した新品種‘紅重’も全国初展示されます。3月5日にはシンポジウムも開催されます。私も話をしますので、皆様是非ご参加ください。

今日の話 49 迫力の野菜画

日本で通信販売がはじまったのは明治9年。農学者で、津田塾大学の創立者津田梅子の父である津田仙によって、種苗が販売されたのが嚆矢こうしとされます。

明治40年代には、日本各地の種苗商や生産者からカタログが発行され、通販の一時代が築かれます。中でも最大のものは、「東洋第一の種苗店 資本金七十万円」とうたった日本種苗株式会社でしょう。明治末期にはカタログ発行部数が年間100万部以上。果樹、野菜、花卉、家畜、農機具、書籍などが販売されていました。

写真は明治43年の日本種苗の営業案内（カタログ）の野菜の販売ページです。当時の図版は写真ではなく、絵なのですが、なぜか

これが女性に大いに受けます（男にはあまり見せていないだけかも）。

写真上はダイコン。ものすごい迫力です。右端には「大根の大王 練馬丸尻大根」とあります。大王と言う表現は最近は使いませんね。「沢庵の大王」もあります。

中段の写真はカブとハクサイ。ハクサイも「大王白菜」ですね。でかさと言ひ、これが当時の最強の表現なんでしょうか。

写真下は、左ページがニンジン。右は今売られているのとだいぶ印象が違いますが、ゴボウです。ちょっと見にくいのですが「大浦牛蒡」は本当に太いですね。本物を見たい。

昔は野菜も実に多様だったのですね。地方品種で残っているものがあるのか知りたいところです。

では今日はこの辺で。

後から長い一言

日本の通信販売は種苗からはじまったのですが、あまり（と言うか全然）知られていませんね。当時は鉢物を扱うような花屋がほとんどなかったため、全国的な商売をするには、通信販売が最適だったのだと思います。意外にも明治後半には新潟から東京まで鉄道も通じていたんです。



明治43年の日本種苗の営業案内のダイコンの絵は、ものすごい迫力



同営業案内のカブとハクサイ「大王白菜」がすごそう



左ページがニンジン、右がゴボウ「大浦牛蒡」は本当に太い

2011/03/11

花のイベント盛りだくさん

Twitter をはじめた @tutuji_kamemaru こと園芸日記担当の倉重です。みんなの趣味の園芸に「Twitter 通知設定」という項目があるのですが、登録しないと通知できないと思っていました。後から登録は必要ないと知ったのですが、お友達もできましたので続けることにしました。

12日はフラワーセンター大船植物園で開催された「のとキリシマツツジシンポジウム」で講演を行ないました。


http://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=2052

http://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=2062

洋ラン展も好評のうちに終了し、レトロな雰囲気「新潟チウリップ物語」がはじまりました。期間中に50品種2万本のチューリップを展示します。特に新潟県園芸研究センター作出の咲き進むにしたがって白から紅に色が変わるチューリップ「桜小雪」は必見です。

同日に「花の新品種 in にいがた」も開催しました。今回は本邦初公開となる中国の香りのするツツジのリヴァラーレ (*Rhododendron rivulare*) や島根大学の小林教授が作出した100日間咲き続けるツツジ「天光」(仮称)をはじめとして、シャクナゲ、ボケ、クリスマスローズや雪割草等、新潟県内を中心に育成された175の新品種が勢ぞろい。この展示は3月13日までですので、お見逃しなく。


また、12日には「ファンタジー in 新潟県立植物園 ～ジョン・レノンゆかりのフリージアを育てよう～」のイベントが開催されます。今回は各地のファンタジスタから思いを語ってもらい、当園から地震で被害を受けた長岡市にフリージア「フローリアン」を贈り



ます。詳細は産経新聞でどうぞ。

<http://sankei.jp.msn.com/region/news/110304/ngt11030415550004-n1.htm>

お隣の新津美術館では、秋山庄太郎さんの花の写真、新潟近代美術館所蔵のソーントンの「花の神殿 Temple of Flora」等の植物図譜、倉重コレクションの植物画と古いカタログの展示をしています。解説は私が書きましたので、あわせてご覧いただければと思います。





「新瀧子ウリツプ物語」の展示準備



「花の新品種 in にいがた」で公開した中国産の甘い香りのするツツジ、リヴラーシ



新津美術館での古い園芸カタログの展示の解説を書きました

2011/03/12

イベント中止のお知らせ

地震により、本日 13:30 より予定していました「ファンタジー in 新潟県立植物園 ～ジョン・レノンゆかりのフリージアを育てよう～」を中止させていただきます。皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

温室は通常通り営業しております。チューリップ展、花の新品種 in にいがたも開催しております。また、浜松市のガーベラの展示、お弁当やプチヴェールをつかったお菓子の販売も行います。

2011/03/16

花テラスにフリージアを

こんにちは。園芸日記担当の倉重です。

3月12日に行なわれる予定だった「ファンタジー in 新潟県立植物園 ～ジョン・レノンゆかりのフリージアを育てよう～」が中止になったため、当日予定していたフリージア‘フローリアン’を当園から長岡市に贈呈できませんでした。いきなり何のこっちゃと思われる向きはこちらをご覧ください。

産経新聞ニュース

<http://sankei.jp.msn.com/region/news/110304/ngt11030415550004-n1.htm>

連絡ができず千葉からお二人のファンタジスタがいらっしやったのですが、イベントが中止になり申し訳ないことになってしまいました。でも、新潟のファンタジスタである「すずめ」と私の4人で温室をまわり、しばしの楽しい時間を過ごしました。

現在観賞温室では、‘フローリアン’を含むフリージア多分2,000球くらいの展示(はじめての経験で開花調節がうまくいかず、フローリアンはまだ咲いていません)、ダブルファンタジープロジェクトの解説と北海道新聞の記事のパネル展示をしています。それと合わせて来園者に夢を書いてもらう「みんなの夢ボード」を設置しています。みなさんから多くの夢が寄せられています！

さて、‘フローリアン’の花もそろそろ咲いてくると気になっていたのですが、昨日長岡市の花テラスに出向き、小林センター長に‘フローリアン’10鉢50球と、ダブルファンタジープロジェクト代表の柳生信吾さんの書いてくださった色紙と挨拶の言葉をお渡ししました。

長岡でも夢をかなえるフリージアが咲くことと思います。
次回は園芸日記の正道、植物や園芸に関する記事を書くようにします。

後から長い一言

ダブルファンタジープロジェクトのファンタジスタの皆さんもがんばって活動を進めていらっしゃいます。詳細は以下のリンクをご覧ください。<http://www.kanshin.com/community/58024>



ダブルファンタジープロジェクトの‘フローリアン’を長岡市の花テラスに寄贈
小林センター長と太平さん



花テラスの温室内では草花がすくすくと育っていました



ダブルファンタジープロジェクト「ファンタジー in 新潟県立植物園」で、
みんなの夢ボードを設置しました

2011/03/26

激ウマ！シャクナゲの蜜

広報担当の指摘にしたがい、今回もタイトルに「激」を使ってしまった園芸日記担当の倉重です。

まずは新年度早々のイベントのお知らせです。新潟県花つばき協会・県立植物園共催の「春の大つばき展」が4月1日～3日まで花と緑の情報センターで開催されます。鉢植えや切花のツバキの100以上が出品され、苗木も即売されます。3日には石井たき先生によるツバキの植え替え実習が10:30～11:30、13:30～14:30の2回行なわれます。当日参加も可能ですので、是非ご来園ください。

さて、今日は栽培温室で咲きはじめたシャクナゲの話題です。

今日の話題 50 シャクナゲの蜜標

シャクナゲが子孫を残すためには、タネをつくる必要があります。タネをつくるためには、他の花の雄しべの花粉が雌しべにつかなくてはなりません。その花粉は何が運ぶのか？シャクナゲの場合は種類によってさまざまですが、昆虫、コウモリ、鳥などが主なものです。

今、栽培温室で咲いているのが、イロラツムの亜種コンツメンセ (*Rhododendron irroratum* ssp. *kontumense*) です。1994年にイギリスの友人がベトナムで採取したタネから育てた苗です。イロラツムは中国雲南、四川省からベトナム、インドネシアまで広く分布し、花色の変異も大きいことが知られています。

さて、花が鐘形なので中が見にくいのですが、のぞいて見ると、奥にブロッツと呼ばれる斑点がありました。ツツジなんかも花卉に

濃色の斑点がありますね。花粉は虫が運ぶのですが、このブロッチを指して昆虫が花に集まります。花の薄い地色に濃い色がある（虫が認識する紫外線の反射率が異なる）と虫はそこに蜜があると認識します。このマークを蜜標といいます。

シャクナゲのブロッチは、5枚の花弁の一番上にだけあります。観察するとそのブロッチがある花弁の元にだけ蜜がたまっていました。昆虫はそこに行けば確実に蜜が吸えるわけです。なんともうまい具合に進化しているんですね。花を外側から見ると、やっぱり蜜のたまる上の部分のくぼみが深いようです。

この蜜が甘くてうまい！植え替え作業をしているボランティアさんにも味見してもらいました。

後から長い一言

いろいろ味わってみると、ツツジよりもシャクナゲの花の蜜の方が味が濃くて甘いようです。ツツジの‘大紫’（紫色の大きな花の咲くツツジで、公園などに良く植えられている）は白粉のようなかおりがしますが、蜜もそんな味がします。

レンゲツツジの仲間の蜜は吸わないでくださいね。普通には植えてありませんが、花がオレンジ色なのですぐ分かります。葉もそうですが、蜜も有毒なようです。吸ってみたら、甘いのですがちょっと苦いような味がしました。



栽培温室で咲いたシャクナゲの原種 (*Rhododendron irroratum* ssp. *kontumense*)



花の奥には斑点があり、そこに蜜がたまっていた



裏から見ると、蜜がたまる上の部分のくぼみが深いのが分かる

2011/03/27

雪の中 高城登山

こんにちは。今日は足の痛い園芸日記担当の倉重です。

昨日は高城山に行ってきました。高城はヒメサユリの大群生地で、地域の高城城址保存会等の活動により、自生地が良好に保全されてきました。植物園でもこれまで保全のお手伝いをしてきましたが、昨年秋に植物解説板の監修をした関係で、お披露目式へのお誘いを受けました。5月下旬から6月上旬にはヒメサユリ祭りも開催されます。

今日の話題 51 高城登山記

植物園のまわりはすっかり雪が消え、春も近い感じですが、高城に向かう道の縁にはまだ相当の雪が残っていました。

ふもとの長禅寺から保存会、三条市の職員の総勢 10 名で高城山山頂まで登りました。途中は晴れ(暑い)、曇り、吹雪(猛烈に寒い)と、かわりやすい天気でしたが、晴れた時の雪に覆われた平野と山々の眺望はとてもすばらしいものでした。柔らかくなってきた雪道は歩きにくく、山頂まで1時間半ほどかかりました。これも修行と思って登りましたが、標高はわずか 373m です。

山頂の解説板は半分雪に埋もれていました。避難小屋のスコップで掘り出して、お披露目式典。寒いので早々に引き返しました。

植物には期待していなかったのですが、ちょうどマルバマンサクが満開でした。時々赤い花もあるのですが、ここの花は黄色でした。しかし、なんで花がピンと伸びずに縮れているんでしょうね。不思議です。同行した方のお話では今年は花が少ないが、多い年は黄色

に染まるような感じになるとのことでした。

それと印象的だったのがブナの芽が膨らんでいる様子です。葉が展開する前にあんなに芽が丸くなるとは知りませんでした。

もうすぐ春も近いようです。

後から長い一言

ヒメサユリは新潟県を中心とした日本海側に分布する貴重なユリで、環境省と新潟県の絶滅危惧種です。三条市（旧下田村）や福島県会津の自生地が有名です。雪がなければ簡単に登れますので、是非ご覧ください。清楚な草姿で、上品なピンクの花です。



雪に埋もれた高城山の植物解説板を掘り出した



ふくらみはじめたブナの芽



雪の中で満開のマルバマンサク

2011/03/31

Goodbye Mr H (Hoosiers)

全国 100 万人の鷹の爪ファンの皆さんこんにちは。園芸日記担当の倉重です。あっと言う間に年度末になりました。数えてみたら 8 月 19 日からスタートした園芸日記も 58 回を数えました。コメントをおよせくださった皆様、ご覧らんくださった方々に厚く御礼申し上げます。

せっかく書いたので、記事をまとめた電子書籍を発行しようと思っています。本当は NHK 出版から本にしてもらえれば良かったのですが、担当の松崎さんから「無理です」とのお返事をいただきましたので、断念した次第です。

残念なお知らせもあります。温室担当 H が異動になります。4 月からは温室担当 H 2 号となりますので、皆さんお引き立てのほどよろしく願い申し上げます。現在キャラ設定中ですので、登場まで少々お待ちください。

🌱 今日の話 52 チューリップさまざま

先日、当園のチューリップ展がテレビの生中継で放映されたのですが、展示担当 N の「チューリップの花びらは普通 6 枚ですが、外側の 3 枚は萼^{がく}が変化したもので、内側 3 枚が花びらなんですよ」の説明に、スタジオのアナウンサーが「へえ～」と感心することしきりでした。これで今回の園芸日記のテーマはこれだと思いました。外すことが多い小生にとっては貴重な情報でしたね。

他の単子葉植物、ユリもヘメロカリスなども花卉の数は 3 が基本になっています。外側の萼由来の花弁を外花被^{がいかひ}、もともとの花びら

ないかひ
を内花被といいます。ランの場合は内花被の下の一枚がさらにリップ（唇弁）に変化しています。

なんの進展もなく話題はこれで終わりです。

さて、展示中のチューリップをご紹介します。写真上が今年から販売された新潟県作出の‘桜小雪’。咲きははじめは白で、だんだんと赤紅色に花色します。日が強いほど色づきが良いようです。

写真中段が‘アプリコット・パロット’。パロット咲きの品種で、大正時代にはとても人気のあった花形です。花色鮮やかで、展示会場でも一際目を引きます。

写真下はチュリパ・フミリス‘ペルシャン・パール’ (*Tulipa humilis* ‘Persian Pearl’)。フミリスは、イランやトルコ高地原産の小型のチューリップで、鉢植えにも適しています。花色が違うので、がく萼と花びらの違いが分かりやすいですね。



今年から販売された新潟県作出の‘桜小雪’
咲きははじめは白で、だんだんと赤紅色に変化する



一際目を引く‘アプリコット・パロット’



小さな花がかわいらしいチュリパ・フミス ‘ベルシャン・パール’

続きは、こちらから

<http://www.shuminoengei.jp/?id=3078>

みんなの趣味の園芸

新潟県立植物園 植物園日記

最後の「後から長い一言」

2010年6月に日本植物園協会の総会で、水戸植物公園の西川園長からNHK出版の運営する「みんなの趣味の園芸」に植物園も参加してはどうかと提案がありました。ちょうど当園でも、ブログで開花状況や展示、イベントをタイムリーに知らせることができるようにしようと話していたところでしたので、これ幸いにと参加した次第です。

ブログ形式の日記ですし、知らない方にも読んでもらわないといけませんので、思い切って軽い感じの文章にしました。はじめてみると、書くのに時間がかかり、文字数の制限に苦しみ、当初の目的であった即時的な情報源としての役割は果たせませんでした。面白くて、ためになる日記をモットーにインターネットや栽培解説書には書かれていないような内容を目指しました。

園芸日記をはじめて面白かったのは、コメントをつうじての読者の皆様とのやり取りです。たくさんコメントを頂戴してありがたく、また日記を書く励みになりました。これもせっかくですので、本文を補足した内容をまとめて「後から長い一言」としました。

今回の電子書籍の出版によって多少でも植物や園芸の面白さや楽しさ、奥深さを知っていただければと思っています。

最後に「みんなの趣味の園芸」の記事をお読みくださった皆様、そして本書をダウンロードしてくださった皆様にお礼申し上げます。また、みんなの趣味の園芸サイトを運営するNHK出版の松崎さんには貴重なご助言をいただきました。あわせてお礼申し上げます。

新潟県立植物園 園芸日記担当
倉重 祐二

協力 みんなの趣味の園芸（NHK 出版）

<http://www.shuminoengei.jp/>

コメントをお寄せくださった皆様

chackee

hanura

maririn

SATO

sumire

あお @ 岐阜県

神奈川県立フラワーセンター大船植物園

くじら

グレープ

こころ

渋谷区ふれあい植物センター

ジャカランダ

ちこりん

とろんこ

花好かんちゃん

花は愛。

ハナノカオリン

ノーム

のんりこ

ゆきべえ

新潟県立植物園 みんなの趣味の園芸 植物園日記
2010年8月～2011年3月

2011年8月24日発行

著 者 倉 重 祐 二

発行者 新潟県立植物園

<http://botanical.greenery-niigata.or.jp/>

財団法人 新潟県都市緑花センター

<http://www.greenery-niigata.or.jp/>

表紙・植物イラスト 中山 典子 (型染め)

レイアウトデザイン 斎藤 恵子